

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	活水女子大学		
② 大学等の設置者	学校法人活水学院	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	長崎市東山手町1番50号		
⑤ 申請するプログラム名称	Kwassui M-DASH Literacy		
⑥ プログラムの開設年度	2021	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤) 88	人	(非常勤) 119
			人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数			22
			人
⑩ 全学部・学科の入学定員	330	人	
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数		1,112
			人
1年次	248	人	2年次
			292
			人
3年次	304	人	4年次
			268
			人
5年次		人	6年次
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	前田 瞬	(役職名)	国際文化学部准教授・情報センター長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	教養教育センター		
(責任者名)	前田 瞬	(役職名)	国際文化学部准教授・情報センター長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	教養教育センター		
(責任者名)	村元 宏行	(役職名)	国際文化学部教授・教養教育センター長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

## 連絡先

所属部署名	教務課	担当者名	三浦 秀成 美馬 美郁
E-mail	<a href="mailto:edusec@kwassui.ac.jp">edusec@kwassui.ac.jp</a>	電話番号	095-822-4107

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

国際文化学部・音楽学部・健康生活学部：プログラムを構成する科目群から4単位以上取得すること。  
 1)教養セミナー(1単位)、キャリアデザインセミナー(1単位)、情報処理基礎(2単位)を必修とする。  
 2)上記以外の科目で、ITの発展と生活(2単位)、メディアリテラシー論(2単位)、アプリケーション演習(2単位)、情報科学(2単位)は選択とする。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
教養セミナー	1	○	全学開講	○	○						
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○							
ITの発展と生活	2		一部開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○						
ITの発展と生活	2		一部開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
教養セミナー	1	○	全学開講		○						
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○						
ITの発展と生活	2		一部開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○							

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報処理基礎	2	○	全学開講	○	○						
ITの発展と生活	2		一部開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○							

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報処理基礎	2	○	全学開講	○	○	○							
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○	○							
アプリケーション演習	2		全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報科学	4-2アルゴリズム基礎		
情報科学	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット活用法・インターネットを学びに活用する「教養セミナー」(6回目)</li> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン①・PBL:社会が今後抱える課題は何か「キャリアデザインセミナー」(8回目)</li> <li>・ガイダンス:データ駆動型社会・AI社会とは?「ITの発展と生活」(1回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま①:第4次産業革命「ITの発展と生活」(2回目)</li> <li>・情報とAI その①:エレクトロニクス革命「メディアリテラシー論」(12回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL活動②・グループでの取組み「教養セミナー」(13回目)</li> <li>・PBL活動③・プレゼンテーション「教養セミナー」(14回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま④:ビッグデータの活用、AIの活用を支える技術「ITの発展と生活」(5回目)</li> <li>・情報とAI その②:人工知能ブームまでのエレクトロニクス革命の変遷と確率論「メディアリテラシー論」(13回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう①・地域社会の現状分析「キャリアデザインセミナー」(10回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま②:社会におけるビッグデータ・AIの活用場面「ITの発展と生活」(3回目)</li> <li>・情報の伝達の歴史:道と技術、メディアとテクノロジー「メディアリテラシー論」(5回目)</li> </ul>

<p>常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン②・社会が抱える課題に自分はどう関わるか「キャリアデザインセミナー」(9回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま③:意思決定におけるビッグデータ・AIの活用場面「ITの発展と生活」(4回目)</li> <li>・情報とAI その①:エレクトロニクス革命「メディアリテラシー論」(12回目)</li> </ul>
<p>(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま④:ビッグデータの活用、AIの活用を支える技術「ITの発展と生活」(5回目)</li> <li>・機械学習とディープラーニングについて「メディアリテラシー論」(14回目)</li> </ul>
	<p>1-5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・身近な地域課題から考えてみよう③・提言を実行していくには「キャリアデザインセミナー」(12回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま②:社会におけるビッグデータ・AIの活用場面「ITの発展と生活」(3回目)</li> <li>・データ駆動型社会・AI社会のいま③:意思決定におけるビッグデータ・AIの活用場面「ITの発展と生活」(4回目)</li> </ul>
<p>(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>3-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティとモラル「情報処理基礎(音・デ)」(2回目)</li> <li>・セキュリティと情報モラル「情報処理基礎(英)(日)」(2回目)</li> <li>・個人情報について「情報処理基礎(食)」(5回目)</li> <li>・情報ネットワークの利用と、情報倫理(知的財産、ネチケツト)「情報処理基礎(子)」(3回目)</li> <li>・情報倫理観を持つ大切さ④:個人情報、プライバシー「ITの発展と生活」(13回目)</li> <li>・情報倫理観を持つ大切さ⑤:情報発信者としての責任「ITの発展と生活」(13回目)</li> <li>・人工知能の種類と言論・表現の自由をめぐる議論「メディアリテラシー論」(14回目)</li> </ul>
	<p>3-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティとモラル「情報処理基礎(音・デ)」(2回目)</li> <li>・セキュリティと情報モラル「情報処理基礎(英)(日)」(2回目)</li> <li>・情報セキュリティについて「情報処理基礎(食)」(4回目)</li> <li>・情報ネットワークの利用と、情報倫理(知的財産、ネチケツト)「情報処理基礎(子)」(3回目)</li> <li>・情報セキュリティ対策「ITの発展と生活」(9回目)</li> </ul>

	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン①・PBL: 社会が今後抱える課題は何か「キャリアデザインセミナー」(8回目)</li> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン②・社会が抱える課題に自分はどうか「キャリアデザインセミナー」(9回目)</li> <li>・Excelの基本操作①: データの入力「情報処理基礎(音・デ)」(6回目)</li> <li>・Excel-1(・数式、関数とは・AVERAGE関数、数式のコピー・IF関数、絶対参照・合計)「情報処理基礎(英)(日)」6回目</li> <li>・Excelを使っての練習問題①(基本操作)「情報処理基礎(食)(5回目)</li> <li>・「表計算ソフトの基本操作(1)ソフトの起動、終了、データ入力、修正、消去」「情報処理基礎(子)」(8回目)</li> <li>・Excel演習3(数式と関数の適用1: 数式を分析する、数式オプションを操作する)「アプリケーション演習」(10回目)</li> </ul>
<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・身近な地域課題から考えてみよう③・提言を実行していくには「キャリアデザインセミナー」(12回目)</li> <li>・Excelの基本操作④: グラフの特徴と作成「情報処理基礎(音・デ)」(9回目)</li> <li>・Excel-3(・グラフの種類・シートのコピー、削除、変更・並べ替え・グラフの作成・グラフを含む印刷)「情報処理基礎(英)(日)」8回目</li> <li>・Excelを使っての練習問題③(表・グラフ作成)「情報処理基礎(食)」(7回目)</li> <li>・表計算ソフトの基本操作(3)簡単な計算、グラフ作成「情報処理基礎(子)」(10回目)</li> <li>・表計算(Excel)4: グラフ作成(1)「情報処理基礎(看)」(10回目)</li> <li>・表計算(Excel)5: グラフ作成(2)「情報処理基礎(看)」(11回目)</li> <li>・疫学で用いられる統計的処理とその解釈(9回目)</li> <li>・Excel演習5(視覚的なデータの表示1: 高度なグラフの機能を適用する、データを分析する)「アプリケーション演習」(12回目)</li> </ul>

- |     |   |
|-----|---|
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう①・地域社会の現状分析「キャリアデザインセミナー」(10回目)</li> <li>・クラス内プレゼンテーション「キャリアデザインセミナー」(13回目)</li> <li>・Excelを用いたデータ分析①: データの種類と単純集計法、表の編集「情報処理基礎(音・デ)」(10回目)</li> <li>・Excelを用いたデータ分析②: ピボットテーブルの活用「情報処理基礎(音・デ)」(11回目)</li> <li>・Excelを用いたデータ分析③: 散布図の作成と回帰分析「情報処理基礎(音・デ)」(12回目)</li> <li>・Excelアンケート集計-1(・リスト形式・認知度ごとに集計・メディア・認知度ごとに集計)「情報処理基礎(英)(日)」11回目</li> </ul> |
| 2-3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Excelアンケート集計-1(・カタカナ語で並べかえ・認知度ごとに検証)「情報処理基礎(英)(日)」11回目</li> <li>・インターネット上のファイルやソフトの利用について、共通(Word,Excel)応用問題①「情報処理基礎(食)9回目</li> <li>・課題レポート作成演習(表計算ソフト)「情報処理基礎(子)」(11回目)</li> <li>・Excel演習4(数式と関数の適用2: データの集計作業を実行する、数式に関数を適用する)「アプリケーション演習」(11回目)</li> <li>・Excel演習6(視覚的なデータの表示2: ピボットテーブルを適用する、操作する、ピボットグラフを適用する、操作する、スライサーの使い方を示す)「アプリケーション演習」(13回目)</li> </ul>  |

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- |   |
|---|
| <p>(1)人文社会科学を学ぶ学生が「数理的」・「論理的」思考に基づいて、意思決定できる能力が身につく。</p> <p>(2)自然科学を学ぶ学生が「技術と社会」の関わりやデータサイエンスの自然科学への応用法に基づいて、意思決定できる能力が身につく。</p> <p>(3)AI社会をより良く生活するために必要となる素養(技術動向と社会の関わり・情報倫理・情報セキュリティ)が身につく。</p> |
|---|

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<p><a href="https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouyoukyouiku.html">https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouyoukyouiku.html</a></p>
--

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

看護学部:プログラムを構成する科目群から6単位以上取得すること。  
 1)教養セミナー(1単位)、キャリアデザインセミナー(1単位)、情報処理基礎(2単位)、疫学・保健統計 I (2単位)を必修とする。  
 2)上記以外の科目で、メディアリテラシー論(2単位)、アプリケーション演習(2単位)、看護医療情報学(1単位)は選択とする。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
教養セミナー	1	○	全学開講	○	○						
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○							
メディアリテラシー論	2		全学開講	○	○						
看護医療情報学	1		一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○	○						
疫学・保健統計 I	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
教養セミナー	1	○	全学開講		○						
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○							
看護医療情報学	1		一部開講		○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報処理基礎	2	○	全学開講	○	○						
メディアリテラシー論	2		全学開講	○							
看護医療情報学	1		一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報処理基礎	2	○	全学開講	○	○	○							
キャリアデザインセミナー	1	○	全学開講	○	○	○							
アプリケーション演習	2		全学開講	○	○	○							
疫学・保健統計 I	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット活用法・インターネットを学びに活用する「教養セミナー」(6回目)</li> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン①・PBL:社会が今後抱える課題は何か「キャリアデザインセミナー」(8回目)</li> <li>・情報とAI その①:エレクトロニクス革命「メディアリテラシー論」(12回目)</li> <li>・病院看護における情報システムの活用「看護医療情報学」(3回目)</li> </ul>
	<p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL活動②・グループでの取組み「教養セミナー」(13回目)</li> <li>・PBL活動③・プレゼンテーション「教養セミナー」(14回目)</li> <li>・情報とAI その②:人工知能ブームまでのエレクトロニクス革命の変遷と確率論「メディアリテラシー論」(13回目)</li> <li>・医療現場で活用が期待されるAI(人工知能)の紹介「看護医療情報学」(6回目)</li> </ul>
<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非</p>	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう①・地域社会の現状分析「キャリアデザインセミナー」(10回目)</li> <li>・情報の伝達の歴史:道と技術、メディアとテクノロジー「メディアリテラシー論」(5回目)</li> <li>・保健統計について、人口動態統計、母子に関する保健統計「疫学・保健統計 I」(1回目)</li> </ul>

<p>常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン②・社会が抱える課題に自分はどうか「キャリアデザインセミナー」(9回目)</li> <li>・情報とAI その①: エレクトロニクス革命「メディアリテラシー論」(12回目)</li> <li>・疫学で用いられる指標「疫学・保健統計 I」(2回目)</li> </ul>
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・機械学習とディープラーニングについて「メディアリテラシー論」(14回目)</li> </ul>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>1-5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・身近な地域課題から考えてみよう③・提言を実行していくには「キャリアデザインセミナー」(12回目)</li> <li>・医療現場で活用が期待されるAI(人工知能)の紹介「看護医療情報学」(6回目)</li> </ul>
	<p>3-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスと情報セキュリティ基礎「情報処理基礎(看)」(1回目)</li> <li>・人工知能の種類と言論・表現の自由をめぐる議論「メディアリテラシー論」(14回目)</li> <li>・情報倫理とは何か(定義、目的、取り扱い)、電子カルテに関する情報倫理的課題「看護医療情報学」(3回目)</li> </ul>
	<p>3-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスと情報セキュリティ基礎「情報処理基礎(看)」(1回目)</li> <li>・情報リテラシーとは何か(定義、目的、取り扱い)、情報セキュリティの維持向上のための技術とは何か「看護医療情報学」(2回目)</li> </ul>

	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン①・PBL:社会が今後抱える課題は何か「キャリアデザインセミナー」(8回目)</li> <li>・社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン②・社会が抱える課題に自分はどうか「キャリアデザインセミナー」(9回目)</li> <li>・表計算(Excel)1:基本操作「情報処理基礎(看)」(7回目)</li> <li>・データの種類「疫学・保健統計I」(7回目)</li> <li>・【統計解析演習1】ヒストグラムの作成と分布の特性値「アプリケーション演習(看)」(6回目)</li> <li>・【統計解析演習2】二変量データと確率分布「アプリケーション演習(看)」(7回目)</li> </ul>
<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス</p>	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域課題から考えてみよう②・具体的な提言を考える「キャリアデザインセミナー」(11回目)</li> <li>・身近な地域課題から考えてみよう③・提言を実行していくには「キャリアデザインセミナー」(12回目)</li> <li>・表計算(Excel)4:グラフ作成(1)「情報処理基礎(看)」(10回目)</li> <li>・表計算(Excel)5:グラフ作成(2)「情報処理基礎(看)」(11回目)</li> <li>・疫学で用いられる統計的処理とその解釈「疫学・保健統計I」(9回目)</li> <li>・【統計解析演習3】統計的推測(推定)「アプリケーション演習(看)」(8回目)</li> <li>・【統計解析演習4】統計的推測(仮説検定)「アプリケーション演習(看)」(9回目)</li> </ul>

ス・AIの基本的な活用法に関するもの

- 2-3
- ・身近な地域課題から考えてみよう①・地域社会の現状分析「キャリアデザインセミナー」(10回目)
  - ・クラス内プレゼンテーション「キャリアデザインセミナー」(13回目)
  - ・表計算(Excel)5: グラフ作成(2)「情報処理基礎(看)」(11回目)
  - ・表計算(Excel)6: データベース「情報処理基礎(看)」(12回目)
  - ・データの種類「疫学・保健統計 I」(7回目)
  - ・検定の考え方(帰無仮説、t検定「平均値の差の検定」と $\chi^2$ 乗検定と相関係数「回帰直線」、多変量解析)「疫学・保健統計 I」(10回目)
  - ・データを使つてのSPSSの実際の使い方「疫学・保健統計 I」(12回目)
  - ・【統計解析演習5】アンケート調査の解析(クロス集計表と独立性検定)「アプリケーション演習(看)」(9回目)
  - ・【統計解析演習6】健康指標の計算(死亡率と年齢調整死亡率, SMR, 罹患率)「アプリケーション演習(看)」(10回目)
  - ・【GIS演習(ArcGIS) 1】GISの基礎知識「アプリケーション演習(看)」(11回目)
  - ・【GIS演習(ArcGIS) 2】検索と解析「アプリケーション演習(看)」(12回目)
  - ・【GIS演習(ArcGIS) 3】ジオプロセッシング「アプリケーション演習(看)」(13回目)
  - ・【GIS演習(ArcGIS) 4】クラウドサービスを利用したジオコーディングと分類地図の作成「アプリケーション演習(看)」(14回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- (1)自然科学を学ぶ学生が「技術と社会」の関わりやデータサイエンスの自然科学への応用法に基づいて、意思決定できる能力が身につく。
- (2)AI社会をより良く生活するために必要となる素養(技術動向と社会の関わり・情報倫理・情報セキュリティ)が身につく。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouyoukyouiku.html>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

2021

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
国際文化学部 英語学科	40	160	23	23											23	14%
国際文化学部 日本文化学科	40	160	29	27											29	18%
音楽学部 音楽学科	35	140	14	14											14	10%
健康生活学部 食生活健康学科	60	250	36	36											36	14%
健康生活学部 生活デザイン学科	35	140	36	35											36	26%
健康生活学部 子ども学科	45	185	30	30											30	16%
看護学部 看護学科	75	300	69	0											69	23%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	330	1335	237	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	237	18%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

活水女子大学教養教育センター規程
------------------

## ② 体制の目的

<p>学生に対する教養教育を充実させることを目的に、教養教育科目の点検・評価・改善をすることを目的に設置されている。「Kwassui M-DASH Literacy」も、教養としての数理・データサイエンス・AIに関する知識の醸成を目的としていることから、教養教育センターにて教育の質を向上させる検討を行っている。</p>
--

## ③ 具体的な構成員

<p>教養教育センター長・国際文化学部教授 村元 宏行          教務部長・国際文化学部准教授 香川 実成          食生活健康学科主任・准教授 阿南 祐也          情報センター長・国際文化学部准教授 前田 瞬</p>
--

## ④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	18%	令和4年度予定	33%	令和5年度予定	58%
令和6年度予定	83%	令和7年度予定	108%	収容定員(名)	1,335

## 具体的な計画

<p>令和3年度より、活水女子大学の「教養教育」のWebページに「Kwassui M-DASH Literacy」の学習到達目標や修了要件、構成する科目群・科目概要を掲載している。</p> <p>また、2021年度入学生より、「教養セミナー」「キャリアデザインセミナー」「情報処理基礎」の3科目(看護学部は、3科目の他に、2年次前期開講科目の「疫学・保健統計Ⅰ」を含む)を本教育プログラムの必修科目として位置付けている。従前よりこの3科目は卒業要件に必要な必修科目として位置づけているため、履修者数・履修率は2021年度入学生は履修率100%である。なお、看護学部の「疫学・保健統計Ⅰ」についても、看護学部専門科目の必修科目として位置付けている。そのため、年次進行で全学生が本教育プログラムを修了する予定である。</p> <p>併せて、令和4年度からは日本文化学科専門科目の「経済学」「地域経済学」「マーケティング論」を他学部他学科開放科目(後述)に指定し、ビジネスパーソンとして身につけておくべき数理・データサイエンス・AIリテラシーに関する内容を、全学学生が履修できる計画をしている。</p>
--

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学の数理・データサイエンス・AIリテラシー醸成を目的とする教育プログラムは、基幹科目とした「教養セミナー」「キャリアデザインセミナー」「情報処理基礎」(看護学部は、「疫学・保健統計Ⅰ」)については、卒業要件の必修科目としても位置付けているため、履修率は100%としている。

また、その他の数理・データサイエンス・AIリテラシー醸成を目的とする多くの科目は教養教育科目であるため、全学学生が履修できるようになっている。併せて、本学は、他学部他学科履修制度が整備されており、特定の学科で開講されている専門教育科目を他学科の学生が履修できるよう規程を整備している(活水女子大学履修規程第3条第1項)。

本教育プログラムに関連した科目としては、日本文化学科の「メディアリテラシー論」を他学部他学科開放科目に指定しており、本学の全学部生が履修できるようにしている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムの学生向けに説明した学習目標やプログラム修了要件、構成する科目群は、本学「教養教育」のWebページに公開しており、学生が閲覧できるようにしている。  
公開先URL：<https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouyoukyouiku.html>

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの根幹をなす「教養セミナー」、「キャリアデザインセミナー」、「情報処理基礎」(看護学部は、「疫学・保健統計Ⅰ」)については、卒業要件となる必修科目としても位置づけられており、本学学生全員が学習できるようにしている。

その他の本教育プログラムを構成する科目群についても、数理・データサイエンス・AIに関わる内容に興味を持つ学生が履修できるように、可能な限り時間割編成の工夫をしている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

専任教員担当の科目についてはオフィスアワーを設定し、学習内容に関する質問を受け付ける機会を設けている。また、非常勤講師担当の科目については、授業終了後に質疑応答に対応する時間を設け、学習内容に関する質問に対応している。

## 自己点検・評価について

## ① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教務課において、プログラムの履修・単位修得状況を把握している。また、学務システムの学習ポートフォリオ機能を活用して、受講者毎の演習の進捗状況や課題提出状況を把握できるようにしている。</p>
学修成果	<p>教務課において「教養セミナー」・「キャリアデザインセミナー」・「情報処理基礎」の3科目について学修到達度セルフチェックを実施している。その中で、各科目のシラバスで示している「知識・技能の習得」や「授業における学修の到達目標及びテーマ」の項目を分析している。そのことで、当該科目の授業内容について学生の理解度を把握することができ、その結果を教養教育センター・IR委員会と連携し、本教育プログラムの点検・評価・改善に活用している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>本教育プログラム受講者全員に対して、当該科目の授業評価アンケートを実施しており、教養教育センター、IR委員会の2組織が連携し、学生の理解度を分析している。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本教育プログラムの受講者を対象に実施した授業評価アンケートの結果を、大学Webサイト上で公開することによって、他の学生は本教育プログラムの履修について既受講者の意見を閲覧できる環境を整備している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達 成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムの根幹をなす「教養セミナー」、「キャリアデザインセミナー」、「情報処理基礎」(看護学部は、「疫学・保健統計Ⅰ」)については、卒業要件となる必修科目としても位置づけられており、履修率は100%である。 その他の科目についても時間割等を可能な限り工夫することによって、本教育プログラムを構成している科目群を学生が履修できるように、教務課と教養教育センターで検討をはじめている。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>就職課とIR委員会が中心となって、卒業生調査を卒後1年以内、その卒業生の就職先に対する調査も1年以内に実施し、本学の「学び」が社会でどのように活かされているのかという意見を聴く機会を得ている。本教育プログラムは、2021年度入学生から実施しているため、その学生が卒業した後に、本教育プログラム修了者の活躍状況や企業からの評価を得られるようになっている。</p> <p>また、「キャリアデザインセミナー」のPBLで連携している民間企業、公務員団体等に対して、本教育プログラムに関する社会的意義を聴取することが可能である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロックに連携校として加盟しており、コンソーシアムで開催されているイベントや研修会での民間企業・団体の声を参考に、本教育プログラムを構築し、点検・評価できるようにしている。</p> <p>また、上記に示したように「キャリアデザインセミナー」のPBLで連携している民間企業、公務員団体等に対して本教育プログラムに対する意見や教育方法に関するアドバイスをいただけるよう準備を進めている。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「教養セミナー」や「キャリアデザインセミナー」において、大学生活ということテーマとしたり、身近な地域課題解決ということテーマとすることで、データを正しく扱うことの大切さやデータを活用することの面白さをPBLを通じて学ぶ機会を提供して</p> <p>また、「情報処理基礎」においても日常生活における情報倫理・情報セキュリティ、文系学生にとって身近なアプリケーションソフトウェアであるWord・Excel・PowerPointを活用したデータの収集・分析・整理を身近な題材を使って演習させる機会を提供して</p> <p>「ITの発展と生活」や「メディアリテラシー論」では、数理・データサイエンス・AIリテラシーを身につける重要性について、学生にとって身近なテーマを取り上げることに努め、授業を進めている。</p> <p>「看護医療情報学」や「疫学・保健統計Ⅰ」では、看護専門職としてのデータサイエンス・AIリテラシーを身につけることについて、講義と演習を組み合わせ、授業を進めている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>教養教育センターが中心となって、IR委員会と連携のもと、授業評価アンケートの結果を参考に、学生にとって身近な数値的問題やデータサイエンス・AIに関する内容は何かについて明らかにし、教材の選定を実施している。また、定期試験やレポート課題の結果、学修到達度セルフチェックの結果に基づいて、学生の数理・データサイエンス・AIに関する理解度を把握し、理解度を向上させるように担当教員レベルで授業改善を図る取り組みをしている。</p> <p>その他、コンソーシアムで開催されているイベントや研修会での民間企業・団体の声を参考に、社会で求められている数理・データサイエンス・AIリテラシーとは何かを参考に、本教育プログラムの点検・評価を実施している。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.kwassui.ac.jp/university/gakubugakka/kyouyoukyouiku.html>

**科目名： 教養セミナー****Seminar for Basic Study Skills**

担当者名： 村元 宏行/阿南 祐也/北達 勝久/狩野 暁洋/香川 実 成/黒木 香/八坂 徳子/藤 希望/池田 光尙

開講期： 前期 学問分野： BSS 基礎学習(独自設定)

単位： 1 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 教養コア科目【演習】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】****(1) 知識の習得**

大学生活を身体的・精神的に安全に送るための知識、さらに社会へ目を向けていくための知識を習得する。

**(2) スタディ・スキルズの習得**

書誌情報の記録方法、レポート・論文の書き方、レジユメの作成方法、プレゼンテーション・スキル等、大学4年間の学びに必要とされる基本的なスタディ・スキルズを身に付ける。

**(3) 批判的視点の育成**

新聞記事を中心に、図書・インターネット等を活用し、批判的な視点で思考することができる。

**(4) 他者理解**

自分と異なる専攻分野を学んでいる人の考えや価値観を知り、それを理解できる。

**【授業の概要】**

学部・学科枠を超えたクラス編成(1クラス約20名)とし、他の学部・学科生との協働作業(課題の相互チェック、ディスカッション、プレゼンテーションに対する質疑応答等)を通じた対話型授業とする。新聞記事に基づくワークシート学習に取り組み、継続的に時事問題を取りあげる。併せて、図書館の積極的・自主的活用を図る。

**【アクティブ・ラーニング】**

ディスカッション等のグループ・アクティビティをおこなう。

**【授業計画(1回目)】**

オリエンテーション

- ・アイスブレイキング
- ・大学生活とネットリテラシー

**【授業計画(2回目)】**

大学での学び

- ・高校と大学の違い

**【授業計画(3回目)】**

教養科目はなぜある

- ・専門と関係の無い事を学ぶことに意味があるのか

**【授業計画(4回目)】**

自分にとって魅力ある大学生活を考える

- ・時間の使い方

**【授業計画(5回目)】**

新聞活用法

- ・新聞を読む意味は

**【授業計画(6回目)】**

インターネット活用法

- ・インターネットを学びに活用する

**【授業計画(7回目)】**

資料活用：学外施設

**【授業計画(8回目)】**

レポートの書き方

**【授業計画(9回目)】**

個別テーマ：LGBT

- ・シチズンシップの授業と併せて考える

**【授業計画(10回目)】**

個別テーマ：大学生活とトラブル

**【授業計画(11回目)】**

ゲストをお迎えして

**【授業計画(12回目)】**

PBL活動

- ・PBL (Project Based Learning) とは

**【授業計画(13回目)】**

PBL活動

- ・グループでの取組み

**【授業計画(14回目)】**

PBL活動

- ・プレゼンテーション

**【授業計画(15回目)】**

まとめ

**【評価方法及び基準】**

- ・提出物：60%
- ・プレゼンテーション30%
- ・取組状況10%

基準などの詳細は授業内で説明

**【テキスト】**

特になし

**【参考文献】**

授業内で提示

**【授業外における学習方法及び時間】**

授業課題（授業資料の振り返りを含む）への取組み（45分）

**科目名： 教養セミナー(看)**

**Seminar for Basic Study Skills**

担当者名： 石川 由香里/村元 宏行/石川 美智

開講期： 前期

学問分野： BSS 基礎学習(独自設定)

単位： 1

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： 教養コア科目【演習】

### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

#### (1) 知識の習得

大学生活を身体的・精神的に安全に送るための知識、さらに社会へ目を向けていくための知識を習得する。

#### (2) スタディ・スキルの習得

書誌情報の記録方法、レポート・論文の書き方、レジュメの作成方法、プレゼンテーション・スキル等、大学4年間の学びに必要とされる基本的なスタディ・スキルズを身に付ける。

#### (3) 批判的視点の育成

新聞記事を中心に、図書・インターネット等を活用し、批判的な視点で思考することができる。

#### (4) 他者理解

自分と異なる専攻分野を学んでいる人の考えや価値観を知り、それを理解できる。

### 【授業の概要】

1クラス約20名の編成とし、協働作業(課題の相互チェック、ディスカッション、プレゼンテーションに対する質疑応答等)を通じた対話型授業とする。新聞記事に基づくワークシート学習に取り組み、継続的に時事問題を取りあげる。併せて、図書館の積極的・自主的活用を図る。

### 【アクティブ・ラーニング】

ディスカッション等のグループ・アクティビティをおこなう。

### 【授業計画(1回目)】

オリエンテーション

- ・アイスブレイキング
- ・大学生活とネットリテラシー

### 【授業計画(2回目)】

大学での学び

- ・高校と大学の違い

### 【授業計画(3回目)】

教養科目はなぜある

- ・専門と関係の無い事を学ぶことに意味があるのか

### 【授業計画(4回目)】

自分にとって魅力ある大学生活を考える

- ・時間の使い方

### 【授業計画(5回目)】

新聞活用法

- ・新聞を読む意味は

### 【授業計画(6回目)】

インターネット活用法

- ・インターネットを学びに活用する

### 【授業計画(7回目)】

資料活用：学外施設

### 【授業計画(8回目)】

レポートの書き方

### 【授業計画(9回目)】

個別テーマ：LGBT

- ・シチズンシップの授業と併せて考える

### 【授業計画(10回目)】

個別テーマ：大学生活とトラブル

### 【授業計画(11回目)】

ゲストをお迎えして

### 【授業計画(12回目)】

PBL活動

- ・PBL (Project Based Learning) とは

**【授業計画(13回目)】**

PBL活動

- ・グループでの取り組み

**【授業計画(14回目)】**

PBL活動

- ・プレゼンテーション

**【授業計画(15回目)】**

まとめ

**【評価方法及び基準】**

- ・提出物：60%
- ・プレゼンテーション30%
- ・取組状況10%

基準などの詳細は授業内で説明

**【テキスト】**

特になし

**【参考文献】**

授業内で提示

**【授業外における学習方法及び時間】**

授業課題（授業資料の振り返りを含む）への取り組み（45分）

**科目名： キャリアデザインセミナー**  
**Seminar for Career Design**

担当者名： 村元 宏行/阿南 祐也/北達 勝久/狩野 暁洋/香川 実成/黒木 香/八坂 徳子/藤 希望/池田 光吉

開講期： 後期 学問分野： BSS 基礎学習(独自設定)

単位： 1 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 教養コア科目【演習】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

- 1) コミュニケーション能力
  - ・ディスカッションで自身の意見を主張できる
  - ・相手に気持ちよく話してもらう傾聴ができる
  - ・聴衆に対して効果的なプレゼンテーションができる
- 2) 他者理解力
  - ・自己分析から他者との違いを理解できる
  - ・意見の違いを受け入れることができる
  - ・チームへ貢献する行動をとることができる
- 3) 課題発見力と論理構成力
  - ・情報を比較することにより課題を発見できる
  - ・原因と解決策を因果関係がわかるように説明できる

**【授業の概要】**

学部・学科枠を超えたクラス編成(1クラス約20名)とし、他の学部・学科生との協働作業を通じた対話型授業とする。前半は自己分析や他者理解を中心としたワークに取り組み、後半はPBL: Project Based Learningを通してチームで動くとはどういうことかを考えながら、自身のキャリアデザインの基礎を築き上げていく。

**【アクティブ・ラーニング】**

ディスカッション等のグループ・アクティビティをおこなう。

**【授業計画(1回目)】**

オリエンテーション  
新しい自分を発見する  
・自己分析シート

**【授業計画(2回目)】**

新しい自分を発見する  
・自分の可能性を考えてみる

**【授業計画(3回目)】**

社会で自立することとは  
・ライフプランを考える

**【授業計画(4回目)】**

社会で自立することとは  
・働くということ

**【授業計画(5回目)】**

社会で自立することとは  
・お金の話

**【授業計画(6回目)】**

ゲストをお迎えして

**【授業計画(7回目)】**

中間まとめ  
・さまざまなキャリアデザイン

**【授業計画(8回目)】**

社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン  
・PBL: 社会が今後抱える課題は何か

**【授業計画(9回目)】**

社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン  
・社会が抱える課題に自分はどうか

**【授業計画(10回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう

- ・地域社会の現状分析

**【授業計画(11回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう

- ・具体的な提言を考える

**【授業計画(12回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう

- ・提言を実行していくには

**【授業計画(13回目)】**

クラス内プレゼンテーション

**【授業計画(14回目)】**

全体プレゼンテーション

**【授業計画(15回目)】**

まとめ

**【評価方法及び基準】**

- ・提出物：60%
- ・プレゼンテーション20%
- ・取組状況20%

基準などの詳細は授業内で説明

**【テキスト】**

特になし

**【参考文献】**

授業内で提示

**【授業外における学習方法及び時間】**

授業課題（授業資料の振り返りを含む）への取り組み（45分）

**【課題に対するフィードバック】**

授業内のディスカッションなどに活用する

**科目名： キャリアデザインセミナー(看)****Seminar for Career Design**

担当者名： 村元 宏行/石川 由香里/山口 善子

開講期： 後期 学問分野： BSS 基礎学習(独自設定)

単位： 1 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 教養コア科目【演習】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

- 1) コミュニケーション能力
  - ・ディスカッションで自身の意見を主張できる
  - ・相手に気持ちよく話してもらう傾聴ができる
  - ・聴衆に対して効果的なプレゼンテーションができる
- 2) 他者理解力
  - ・自己分析から他者との違いを理解できる
  - ・意見の違いを受け入れることができる
  - ・チームへ貢献する行動をとることができる
- 3) 課題発見力と論理構成力
  - ・情報を比較することにより課題を発見できる
  - ・原因と解決策を因果関係がわかるように説明できる

**【授業の概要】**

1クラス約20名とし、協働作業を通じた対話型授業とする。前半は自己分析や他者理解を中心としたワークに取り組み、後半はPBL: Project Based Learningを通してチームで動くとはどういうことかを考えながら、自身のキャリアデザインの基礎を築き上げていく。

**【アクティブ・ラーニング】**

ディスカッション等のグループ・アクティビティをおこなう。

**【授業計画(1回目)】**

オリエンテーション  
新しい自分を発見する  
・自己分析シート

**【授業計画(2回目)】**

新しい自分を発見する  
・自分の可能性を考えてみる

**【授業計画(3回目)】**

社会で自立することとは  
・ライフプランを考える

**【授業計画(4回目)】**

社会で自立することとは  
・働くということ

**【授業計画(5回目)】**

社会で自立することとは  
・お金の話

**【授業計画(6回目)】**

ゲストをお迎えして

**【授業計画(7回目)】**

中間まとめ  
・さまざまなキャリアデザイン

**【授業計画(8回目)】**

社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン  
・PBL: 社会が今後抱える課題は何か

**【授業計画(9回目)】**

社会が抱える課題と自分のキャリアデザイン  
・社会が抱える課題に自分はどう関わるか

**【授業計画(10回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう  
・地域社会の現状分析

**【授業計画(11回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう

- ・具体的な提言を考える

**【授業計画(12回目)】**

身近な地域課題から考えてみよう

- ・提言を実行していくには

**【授業計画(13回目)】**

クラス内プレゼンテーション

**【授業計画(14回目)】**

全体プレゼンテーション

**【授業計画(15回目)】**

まとめ

**【評価方法及び基準】**

- ・提出物：60%
- ・プレゼンテーション20%
- ・取組状況20%

基準などの詳細は授業内で説明

**【テキスト】**

特になし

**【参考文献】**

授業内で提示

**【授業外における学習方法及び時間】**

授業課題（授業資料の振り返りを含む）への取り組み（45分）

**【課題に対するフィードバック】**

授業内のディスカッションなどに活用する

**科目名： 情報処理基礎（音・デ）**  
**Basic Information Processing**

担当者名： 前田 瞬

開講期： 前期 学問分野： THI 情報学基礎理論

単位： 2 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 情報系科目【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

本授業では、本学の情報処理設備やメールシステムの使用方法を理解し、学生生活全般に利用できるようになること、Microsoft社のOffice系ソフトウェアであるWord、Excel、PowerPointの基本操作ができるようになることを目標とする。

**【授業の概要】**

大学生活を送るうえで必要となるコンピュータに関する基礎知識を教授する。具体的には、本学情報システムの活用法、電子メールの活用法、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの活用法について講義と実習を交えて学習する。

**【アクティブ・ラーニング】**

一人1台のコンピュータを用いて実習を行い、学生同士が互いに教え合いながら課題をクリアしていく。

**【授業計画(1回目)】**

ガイダンス：パソコンの基本操作、本学情報システム、メールシステムの活用法

**【授業計画(2回目)】**

情報セキュリティとモラル

**【授業計画(3回目)】**

Wordの基本操作：ページ設定、ビジネス文書の作成

**【授業計画(4回目)】**

Wordの基本操作：チラシの作成（図形描画機能の活用等）

**【授業計画(5回目)】**

Wordの応用操作：レポートの作成（目次、ページ番号、図の挿入、脚注機能の活用、参考文献の表記）

**【授業計画(6回目)】**

Excelの基本操作：データの入力、基礎的な関数の利用（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNTA）

**【授業計画(7回目)】**

Excelの基本操作：絶対参照と相対参照の考え方、関数の活用（IF、AND、OR、SUMIF、COUNTIF）

**【授業計画(8回目)】**

Excelの基本操作：関数の活用（RANK、VLOOKUP、HLOOKUP）

**【授業計画(9回目)】**

Excelの基本操作：グラフの特徴と作成

**【授業計画(10回目)】**

Excelを用いたデータ分析：データの種類と単純集計法、表の編集

**【授業計画(11回目)】**

Excelを用いたデータ分析：ピボットテーブルの活用

**【授業計画(12回目)】**

Excelを用いたデータ分析：散布図の作成と回帰分析

**【授業計画(13回目)】**

PowerPointの基本操作：プレゼンテーションの流れ、スライド作成、SmartArtによる図表化等

**【授業計画(14回目)】**

PowerPointの応用操作：画面の切り替え、アニメーション設定、スライドの印刷等

**【授業計画(15回目)】**

本講義のまとめ

**【評価方法及び基準】**

授業への取組状況：20% 各回で説明される内容を理解し、正確に処理できている

演習課題：80% 情報セキュリティとモラルの内容について説明できる(5%)

Wordを用いて文書作成ができる(20%)

Excelを用いて表計算ができる(25%)

Excelを用いて簡単なデータ分析ができる(20%)

PowerPointを用いてプレゼンテーション資料が作成できる(10%)

**【テキスト】**

毎回の授業でプリントを配布する。

#### 【参考文献】

適宜案内する。

#### 【授業外における学習方法及び時間】

次回授業開始前までに前回学習した内容を復習する（90分）

#### 【課題に対するフィードバック】

ポートフォリオを使用してフィードバックを行う。

**科目名： 情報処理基礎（英）**

**Basic Information Processing**

担当者名： 梅本 雄史

開講期： 前期

学問分野： THI 情報学基礎理論

単位： 2

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： 情報系科目【講義】

#### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

この講義を修了すると、本学の情報処理設備の使用方法を理解し、学生生活全般に利用できるようになる。また、Word、Excel、PowerPointといった代表的なオフィスソフトの基礎を習得しレポート等に活用できるようになる。

#### 【授業の概要】

大学の情報処理設備の使用方法、インターネットの基礎知識を講義したのち、Word、Excel、PowerPointの基礎スキルから情報モラルまでを学習する。

#### 【授業計画(1回目)】

- ・活水のコンピュータ環境と学習方法
- ・コンピュータの起動方法
- ・ソフトウェアの起動方法
- ・ウィンドウの操作
- ・ファイルの移動とコピー
- ・フォルダーの新規作成、保存、削除
- ・電子メールについて

#### 【授業計画(2回目)】

セキュリティと情報モラル

- ・セキュリティとは
- ・コンピュータウイルス
- ・スパイウェア
- ・不正アクセス
- ・フィッシング詐欺
- ・著作権・知的財産権
- ・個人情報
- ・ネチケット

#### 【授業計画(3回目)】

Word - 1

- ・書式
- ・表の作成

#### 【授業計画(4回目)】

Word-2

- ・ワードアート
- ・クリップアート
- ・図の挿入
- ・図形
- ・ページ罫線
- ・印刷

#### 【授業計画(5回目)】

Word-3

- ・ページ設定
- ・表紙の作成

- ・フッター
- ・Excelの表とグラフの挿入
- ・脚注
- ・引用
- ・参考文献
- ・スタイル
- ・スペルチェックと文章校正

#### 【授業計画(6回目)】

Excel-1

- ・数式、関数とは
- ・AVERAGE関数、数式のコピー
- ・IF関数、絶対参照
- ・合計

#### 【授業計画(7回目)】

Excel-2

- ・COUNT関数
- ・SUMIF関数
- ・RANK関数
- ・表の編集
- ・印刷

#### 【授業計画(8回目)】

Excel-3

- ・グラフの種類
- ・シートのコピー、削除、変更
- ・並べ替え
- ・グラフの作成
- ・グラフを含む印刷

#### 【授業計画(9回目)】

PowerPoint-1

- ・スライド作成の注意点
- ・スライドのデザイン、文字の入力
- ・スライドの挿入、コピー、削除
- ・スライドの編集
- ・ワードアートの挿入
- ・クリップアートの挿入
- ・SmartArtの挿入

#### 【授業計画(10回目)】

PowerPoint-2

- ・Excel表の挿入
- ・画面の切り替え効果
- ・アニメーションの設定
- ・スライドショーの実行

Wordレポートの作成

- ・レポートの基本
- ・研究レポートの作成
- ・アウトライン

#### 【授業計画(11回目)】

Excel アンケート集計-1

- ・リスト形式
- ・認知度ごとに集計
- ・メディア・認知度ごとに集計

#### 【授業計画(12回目)】

Excel アンケート集計-2

- ・カタカナ語で並べかえ
- ・認知度ごとに検証

#### 【授業計画(13回目)】

Word レポート作成

- ・ ページ設定
- ・ タイトル
- ・ 段組み
- ・ 表の挿入
- ・ Excelグラフの挿入
- ・ 図表番号
- ・ 参考文献
- ・ 文末脚注

#### 【授業計画(14回目)】

PowerPoint スライド作成-1

- ・ 全体の流れ
- ・ テーマ
- ・ タイトルスライド
- ・ アウトラインペインの利用
- ・ スライドの作成

#### 【授業計画(15回目)】

PowerPoint スライド作成-2

- ・ 画面の切り替え効果
- ・ アニメーションの設定
- ・ スライドショー
- ・ スライドの印刷
- ・ リハーサル
- ・ スライドによる発表

#### 【評価方法及び基準】

小テスト、課題の合計点を、総点数（すべて満点だった場合の合計）で割ったものに100をかけて成績点とする。ただし、欠席1回あたり2点を成績点から減点する。減点は最高10点までとし、出席による加点は無い。

#### 【テキスト】

特になし

#### 【課題に対するフィードバック】

ポートフォリオなどを使用してフィードバックを行う。

#### 【実務経験】

【実務家教員】システムエンジニア、プログラマーとして、POSシステムなどのシステム開発を行った経験を生かし、キャリア教育を行っている。

**科目名： 情報処理基礎(看)**

**Basic Information Processing**

担当者名： 近藤 久義

開講期： 前期

学問分野： THI 情報学基礎理論

単位： 2

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： 情報系科目【講義】

#### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

授業のテーマは、ただ操作法を覚えるのではなく、コンピュータの仕組みを理解することで、コンピュータの利用法や操作法などについて自分で調べて考えることのできる能力を養うことおよびネットワークを利用する際のセキュリティや情報倫理についても理解することである。この授業では、情報処理の基礎となる理論および情報処理を行うためのコンピュータの基本能力(情報リテラシー)を向上させることを目的(到達目標)とする。具体的には、データ解析とレポートおよびプレゼンテーション資料の作成ができるようになることである。

#### 【授業の概要】

授業は、講義と演習を組み合わせる。講義内容の理解度を確認するために、各自1台のコンピュータを使用して操作練習と課題に取り組む。さらに、理解を深めるためにレポート課題に取り組む。授業の序盤では、アプリケーションソフトWordを利用した演習と課題、中盤では、アプリケーションソフトExcelを利用した演習と課題、終盤では、アプリケーションソフトPowerPointを利用した演習と課題に取り組む。

#### 【授業計画(1回目)】

【ガイダンスと情報セキュリティ基礎】

講義の概要および評価法について説明するとともにスキルレベルの確認を行う。また、情報セキュリティの必要性について、いくつかの例を紹介し、情報セキュリティ初心者のための3原則（ソフトウェアの更新、ウイルス対策ソフト（ウイルス対策サービス）の導入、IDやパスワードの適切な管理）を心がけるように解説する。

#### 【授業計画(2回目)】

##### 【文書作成（Word）1】 変換操作

初めに、ショートカットキーを含む文字入力に必要なキーボードの名称と機能について、次いでWordの画面構成、入力機能（IMEツールバー、入力方式、入力モードなど）について解説し、ローマ字入力における促音や拗音の入力、ファンクションキーの活用、単語登録、漢字の読みが分からない場合や文節区切りが上手くいかない場合、難しい人名・地名などの入力について解説と演習を行い、課題を課す。

#### 【授業計画(3回目)】

##### 【文書作成（Word）2】 編集・加工（1）

コピー＆ペースト、文字列の範囲選択、文字の書式（スタイル、サイズ色など）設定、ルビ、文字揃え、ページ設定、文章の分割（段組み）、タブとインデントについて解説し、演習を行うとともに課題を課す。

#### 【授業計画(4回目)】

##### 【文書作成（Word）3】 編集・加工（2）

図や図形の挿入と表の作成と編集、ヘッダーとフッター（ページ番号）の設定、特殊文字の入力、段落番号を含む箇条書きについて解説し、演習を行うとともに課題を課す。

#### 【授業計画(5回目)】

##### 【文書作成（Word）4】 編集・加工（3）

改段と改行の違いについて解説し演習を行う。また、分数や  $\frac{1}{2}$  などを含む数式の入力方法について解説し演習を行い、数式とふりがなを含む文書作成の課題を課す。

#### 【授業計画(6回目)】

##### 【文書作成（Word）5】 編集・加工（4）と保存機能

英文文書を入力するためのページ設定とスペルチェック、文章の校閲機能、文字列の検索と置換の解説と演習を行う。また、ドキュメントのバックアップの方法と暗号化を行うためのパスワード設定について解説し、課題を課す。さらに、ドキュメントの安全な保管法（OneDrive）について紹介する。

#### 【授業計画(7回目)】

##### 【表計算（Excel）1】 基本操作

初めに、Excelファイルの構成について解説し、次にセルの選択やセルへのデータ入力などのセルの基本操作（コピー＆ペースト、移動、離れたセルの選択など）とセルの表示形式について解説する。また、[オートフィルリスト]の作成を含むオートフィル機能とルビ（ふりがな）の表示機能についても解説し、演習を行う。

#### 【授業計画(8回目)】

##### 【表計算（Excel）2】 数式入力とセル参照

表計算ソフトの大きなメリットの一つであるセルへの数式の入力について解説するとともに、セルへの数式や関数の入力を行う場合に利用するセル参照における相対参照と絶対参照の違いについて詳説し、演習と課題を行う。また、セルの表示形式の変更を行うための条件付き書式の機能について詳説し、演習を行う。最後に、Excelの行と列およびシートに関する基本操作（追加・挿入、削除、移動など）について解説する。

#### 【授業計画(9回目)】

##### 【表計算（Excel）3】 関数の利用

Excel関数の役割と書式、利用手順、よく利用される関数について解説し、総和、平均、データの個数、最大値、最小値と条件を満たすデータの個数をおよびその平均値を求めるための演習を行い、課題を課す。

#### 【授業計画(10回目)】

##### 【表計算（Excel）4】 グラフ作成（1）

Excelにおけるグラフ作成の手順について解説し、折れ線グラフと度数分布図、散布図および系列別の折れ線グラフと度数分布図作成の演習を行う。

#### 【授業計画(11回目)】

##### 【表計算（Excel）5】 グラフ作成（2）

折れ線グラフと縦棒グラフの複合グラフおよび人口ピラミッドグラフ作成の演習と課題を行い、散布図を利用した生存率曲線グラフと折れ線グラフを利用した高低グラフ作成の演習と課題を行う。

#### 【授業計画(12回目)】

##### 【表計算（Excel）6】 データベース

データベースの概念について解説し、フォームや入力規則などを利用して効率的なデータベース作成を行う。また、データベースからのデータの抽出において、基本的な抽出条件でデータを抽出する場合に使用するオートフィルタコマンドと詳細な抽出条件を設定可能なフィルタオプションの設定コマンドに関して解説し、演習と課題を行う。

#### 【授業計画(13回目)】

##### 【プレゼンテーション（PowerPoint）1】 図表およびアニメーションの利用

初めに、プレゼンテーションのコツとプレゼンテーションソフトについて説明する。次に、PowerPointの表示モードやスライド作成の基本であるスライドレイアウトの決定やテキストの挿入と移動、スライドの追加などについて解説し、プレゼンテーションファイル作成の演習を行う。最後に、スライドのブラッシュアップツールであるSmartArt、ワードアート、図形や静止画および音声の挿入、アニメーションの設定についても解説し、演習を行う。

#### 【授業計画(14回目)】

【プレゼンテーション (PowerPoint) 2】プレゼンテーションファイル作成

与えられた複数のテーマの中から1つを選択し、指定された条件(スライドの枚数など)に従い、各人がプレゼンテーションファイルを作成する。

#### 【授業計画(15回目)】

【プレゼンテーション (PowerPoint) 3】プレゼンテーション

各自が作成したプレゼンテーションファイルを使用して、制限時間を守ってプレゼンテーションを行うことにより、実際の発表に対処できる能力を身につける。

#### 【授業計画(16回目)】

【定期試験】

#### 【評価方法及び基準】

期末試験 50% Word 20%, Excel 20%, PowerPoint 10%

提出課題 40% 全部で15題程度の課題を予定している。授業終了までの全課題の提出を前提とし、提出がない場合は減点する。

授業への取り組み状況 10% 質問や意見などをもって授業への積極的参加を判断する。毎回の出席が前提であり、欠席がある場合は減点する。

#### 【テキスト】

授業内容に応じた資料を配布する。

#### 【参考文献】

特に指定しない。

#### 【授業外における学習方法及び時間】

次回の授業範囲について配布資料を事前に読み、専門用語については、その意味の理解に努め、不明な点は質問すること(90分)。さらに、授業で学習した操作方法に関して、授業終了後に応用練習を行い、理解を深めることを薦める(90分)。

#### 【課題に対するフィードバック】

課題提出後に内容を詳細に確認し、理解不足や問題点などがあつた場合には、授業時間内に解説する。

**科目名 : 情報処理基礎(食)**  
**Basic Information Processing**

担当者名 : 山田 加奈子

開講期 : 前期 学問分野 : THI 情報学基礎理論

単位 : 2 配当年次 : 1年

難易度 : 1(大学1年次レベル) 科目区分 : 情報系科目【講義】

#### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

この講義を修了すると、本学の情報処理設備の使用方法を理解し、学生生活全般に利用できるようになる。また、Word、Excel、PowerPointといった代表的なオフィスソフトの基礎を習得し円滑に操作できるようになり、課題やレポートの作成等に活用できるようになる。

#### 【授業の概要】

大学の情報処理設備の使用方法、インターネットの基礎知識を講義したのち、Word、Excel、PowerPointの基礎スキルから情報モラルまでを学習する。

#### 【授業計画(1回目)】

メール設定(使い方全般の説明、添付ファイル送受信方法等)

Russellとは何か?

#### 【授業計画(2回目)】

キーボードの操作方法

Wordを使っての文書作成 (基本操作)

#### 【授業計画(3回目)】

ドライブ・フォルダ・ファイルについて

Wordを使っの文書作成 (表・図・写真)

**【授業計画(4回目)】**

情報セキュリティについて

Wordを使っの文書作成 (応用)

**【授業計画(5回目)】**

個人情報について

Excelを使っの練習問題 (基本操作)

**【授業計画(6回目)】**

マウスポインタについて

Excelを使っの練習問題 (関数を使っの計算)

**【授業計画(7回目)】**

Excelを使っの練習問題 (表・グラフ作成)

プリンタの設定方法

**【授業計画(8回目)】**

Excelを使っの練習問題 (その他の機能)

**【授業計画(9回目)】**

インターネット上のファイルやソフトの利用について

共通 (Word, Excel) 応用問題

**【授業計画(10回目)】**

PowerPointとは

PowerPoint練習問題 (基本操作)

**【授業計画(11回目)】**

PowerPoint練習問題 (スライド作成)

**【授業計画(12回目)】**

PowerPoint応用問題 (背景選択、アニメーションの設定)

**【授業計画(13回目)】**

Word、Excel、PowerPoint復習問題

色々な機能を使っイラスト作成

**【授業計画(14回目)】**

Word、Excel、PowerPoint復習問題

**【授業計画(15回目)】**

総括

**【評価方法及び基準】**

授業取組状況20%：指示通りに実施できているか、説明をきちんと聞いているかについてチェックする。私語や授業に関係のない行動をしている場合、また机上に授業と関係ないと思われるものを出している場合、減点対象とする。

課題レポート80%：毎回授業の中で課題を出し、ポートフォリオで提出する。

Wordを適切に操作できる 20%

Excelソフトを適切に操作できる 20%

PowerPointソフトを適切に操作できる 20%

上記 ~ を使って指示されたレポートを作成できる 20%

**【参考文献】**

『学生のための情報リテラシー Office 2016/Windows 10版』、若山 芳三郎、東京電機大学出版局、2016

**【授業外における学習方法及び時間】**

予習：次回授業範囲を事前に読み、分からない箇所を調べておくこと。(90分)

復習：習った箇所を再度見直し、それに関連する事項などを自分で調べること(90分)

**【課題に対するフィードバック】**

課題は主にポートフォリオを使用する。

提出された課題は添削して学生へ返却する。

**科目名： 情報処理基礎(子)**  
**Basic Information Processing**

担当者名： 吉村 元秀

開講期： 前期

学問分野： THI 情報学基礎理論

単位： 2

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： 情報系科目【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

コンピュータ操作の基本、キーボード操作、文書作成、表計算等の情報リテラシーや、LANやインターネット、電子メールを活用した情報取得と伝達について学ぶことをテーマとし、演習を通して、コンピュータ操作とインターネットを利用した情報処理に慣れて情報活用能力（情報リテラシー）を自己学習的に高めることを目標とする。

**【授業の概要】**

ネットワーク端末としてのコンピュータを利用して、パソコンの基本操作や電子メールの基礎的使い方、情報倫理に関する学習などを導入として始め、その後応用的使用方法として、ワープロソフトを使った文書整形（文章入力、文字飾り、ページレイアウト、作表、図挿入）、表計算ソフトを使った数値データ処理（データ入力、表整形、関数の使用、グラフ作成）、プレゼンテーションソフトを使った発表資料作成などについて演習する。「コンピュータの基本操作」「情報リテラシー」

**【授業計画(1回目)】**

オリエンテーション：コンピュータの基礎知識、周辺機器の接続および起動と終了、タイピング練習

**【授業計画(2回目)】**

電子メールの仕組みと送受信、使用に当たってのエチケット

**【授業計画(3回目)】**

情報ネットワークの利用と、情報倫理（知的財産、ネチケット）

**【授業計画(4回目)】**

ワープロソフトの基本操作（1）ソフトの起動、終了、文字入力、ウインドウの操作

**【授業計画(5回目)】**

ワープロソフトの基本操作（2）フォント操作、スタイル調整、文書編集、印刷、保存など

**【授業計画(6回目)】**

ワープロソフトの基本操作（3）図画貼付、表の挿入、ヘッダーフッター調整など

**【授業計画(7回目)】**

課題レポート作成演習（ワープロソフト）

**【授業計画(8回目)】**

表計算ソフトの基本操作（1）ソフトの起動、終了、データ入力、修正、消去

**【授業計画(9回目)】**

表計算ソフトの基本操作（2）表のデザイン、書式設定、行/列の挿入、削除

**【授業計画(10回目)】**

表計算ソフトの基本操作（3）簡単な計算、グラフ作成

**【授業計画(11回目)】**

課題レポート作成演習（表計算ソフト）

**【授業計画(12回目)】**

インターネットでの情報検索

**【授業計画(13回目)】**

プレゼンテーションソフトの基本操作（1）入力、レイアウト、アニメーション

**【授業計画(14回目)】**

プレゼンテーションソフトの基本操作（2）データの取り込み、添付

**【授業計画(15回目)】**

課題レポート作成演習（プレゼンテーションソフトおよびタイピング）

**【評価方法及び基準】**

インターネットでの情報検索10%+課題レポート作成（3回）90%

**【テキスト】**

『Microsoft Office 2019を使った情報リテラシーの基礎』、切田節子、近代科学社、2019年

**【参考文献】**

『初心者のための Microsoft Word 2019』、富士通エフ・オー・エム、富士通エフ・オー・エム出版、2019年

『初心者のための Microsoft Excel 2019』、富士通エフ・オー・エム、富士通エフ・オー・エム出版、2019年

**【授業外における学習方法及び時間】**

授業内で演習したことをしっかり確認しながら復習すること（60分）

**【課題に対するフィードバック】**

レポート実施後、理解が不十分な項目について補足説明やアドバイスをする

**科目名： 情報処理基礎（日）**

**Basic Information Processing**

担当者名： 梅本 雄史

開講期： 前期

学問分野： THI 情報学基礎理論

単位： 2

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： 情報系科目【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

この講義を修了すると、本学の情報処理設備の使用方法を理解し、学生生活全般に利用できるようになる。また、Word、Excel、PowerPointといった代表的なオフィスソフトの基礎を習得しレポート等に活用できるようになる。

**【授業の概要】**

大学の情報処理設備の使用方法、インターネットの基礎知識を講義したのち、Word、Excel、PowerPointの基礎スキルから情報モラルまでを学習する。

**【授業計画(1回目)】**

- ・活水のコンピュータ環境と学習方法
- ・コンピュータの起動方法
- ・ソフトウェアの起動方法
- ・ウィンドウの操作
- ・ファイルの移動とコピー
- ・フォルダーの新規作成、保存、削除
- ・電子メールについて

**【授業計画(2回目)】**

セキュリティと情報モラル

- ・セキュリティとは
- ・コンピュータウイルス
- ・スパイウェア
- ・不正アクセス
- ・フィッシング詐欺
- ・著作権・知的財産権
- ・個人情報
- ・ネチケット

**【授業計画(3回目)】**

Word - 1

- ・書式
- ・表の作成

**【授業計画(4回目)】**

Word-2

- ・ワードアート
- ・クリップアート
- ・図の挿入
- ・図形
- ・ページ罫線
- ・印刷

**【授業計画(5回目)】**

Word-3

- ・ページ設定

- ・表紙の作成
- ・フッター
- ・Excelの表とグラフの挿入
- ・脚注
- ・引用
- ・参考文献
- ・スタイル
- ・スペルチェックと文章校正

#### 【授業計画(6回目)】

Excel-1

- ・数式、関数とは
- ・AVERAGE関数、数式のコピー
- ・IF関数、絶対参照
- ・合計

#### 【授業計画(7回目)】

Excel-2

- ・COUNT関数
- ・SUMIF関数
- ・RANK関数
- ・表の編集
- ・印刷

#### 【授業計画(8回目)】

Excel-3

- ・グラフの種類
- ・シートのコピー、削除、変更
- ・並べ替え
- ・グラフの作成
- ・グラフを含む印刷

#### 【授業計画(9回目)】

PowerPoint-1

- ・スライド作成の注意点
- ・スライドのデザイン、文字の入力
- ・スライドの挿入、コピー、削除
- ・スライドの編集
- ・ワードアートの挿入
- ・クリップアートの挿入
- ・SmartArtの挿入

#### 【授業計画(10回目)】

PowerPoint-2

- ・Excel表の挿入
- ・画面の切り替え効果
- ・アニメーションの設定
- ・スライドショーの実行

Wordレポートの作成

- ・レポートの基本
- ・研究レポートの作成
- ・アウトライン

#### 【授業計画(11回目)】

Excel アンケート集計-1

- ・リスト形式
- ・認知度ごとに集計
- ・メディア・認知度ごとに集計

#### 【授業計画(12回目)】

Excel アンケート集計-2

- ・カタカナ語で並べかえ
- ・認知度ごとに検証

#### 【授業計画(13回目)】

## Word レポート作成

- ・ ページ設定
- ・ タイトル
- ・ 段組み
- ・ 表の挿入
- ・ Excelグラフの挿入
- ・ 図表番号
- ・ 参考文献
- ・ 文末脚注

### 【授業計画(14回目)】

#### PowerPoint スライド作成-1

- ・ 全体の流れ
- ・ テーマ
- ・ タイトルスライド
- ・ アウトラインペインの利用
- ・ スライドの作成

### 【授業計画(15回目)】

#### PowerPoint スライド作成-2

- ・ 画面の切り替え効果
- ・ アニメーションの設定
- ・ スライドショー
- ・ スライドの印刷
- ・ リハーサル
- ・ スライドによる発表

### 【評価方法及び基準】

小テスト、課題の合計点を、総点数（すべて満点だった場合の合計）で割ったものに100をかけて成績点とする。ただし、欠席1回あたり2点を成績点から減点する。減点は最高10点までとし、出席による加点は無い。

### 【テキスト】

特になし

### 【課題に対するフィードバック】

ポートフォリオなどを使用してフィードバックを行う。

### 【実務経験】

【実務家教員】システムエンジニア、プログラマーとして、POSシステムなどのシステム開発を行った経験を生かし、キャリア教育を行っている。

**科目名 : ITの発展と生活**  
**IT Development and Life**

担当者名 : 前田 瞬

開講期 : 後期

学問分野 : INN 情報ネットワーク

単位 : 2

配当年次 : 1年

難易度 : 1(大学1年次レベル)

科目区分 : 教養テーマ別科目【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

本講義では、データ駆動型社会・AI社会の現状を理解し、データ駆動型社会・AI社会で安心・安全に生活できるようにするための術を身に付けることを目標とする。

**【授業の概要】**

1990年代のインターネットの登場は、私たちの生活に大きな変化をもたらし、今日のデータ駆動型社会・AI社会を形成した。本講義ではデータ駆動型社会・AI社会の最新のトピックを取り上げ、データ駆動型社会・AI社会のいまを学ぶ。そして、情報セキュリティや情報倫理に関する知識を学ぶ。

**【アクティブ・ラーニング】**

授業内容に関する小レポートで自らの考えを記入してもらい、次回授業にて教室内で共有・授業内容の深化を図る。

**【授業計画(1回目)】**

ガイダンス : データ駆動型社会・AI社会とは？

**【授業計画(2回目)】**

データ駆動型社会・AI社会のいま : 第4次産業革命

**【授業計画(3回目)】**

データ駆動型社会・AI社会のいま : 社会におけるビッグデータ・AIの活用場面

**【授業計画(4回目)】**

データ駆動型社会・AI社会のいま : 意思決定におけるビッグデータ・AIの活用場面

**【授業計画(5回目)】**

データ駆動型社会・AI社会のいま : ビッグデータの活用、AIの活用を支える技術

**【授業計画(6回目)】**

情報セキュリティの脅威 : コンピュータ・ウイルス

**【授業計画(7回目)】**

情報セキュリティの脅威 : 不正アクセス

**【授業計画(8回目)】**

情報セキュリティの脅威 : 標的型攻撃

**【授業計画(9回目)】**

情報セキュリティ対策

**【授業計画(10回目)】**

情報倫理観を持つ大切さ : 産業財産権

**【授業計画(11回目)】**

情報倫理観を持つ大切さ : 著作権

**【授業計画(12回目)】**

情報倫理観を持つ大切さ : 肖像権

**【授業計画(13回目)】**

情報倫理観を持つ大切さ : 個人情報、プライバシー

**【授業計画(14回目)】**

情報倫理観を持つ大切さ : 情報発信者としての責任

**【授業計画(15回目)】**

本講義のまとめ

**【授業計画(16回目)】**

定期試験

**【評価方法及び基準】**

定期試験 : 70% 「データ駆動型社会・AI社会のいま」を説明できる(10%)

「情報セキュリティの脅威とその対策」を説明できる(30%)

「情報倫理観を持つ大切さ」を説明できる(30%)

レポート : 30% 「データ駆動型社会・AI社会のいま」を理解し、自らがどのように生活していくべきかを判断できる(15%)

「情報倫理に関する事例」の内容を理解し、自らの考えを述べることができる(15%)

**【テキスト】**

毎回の授業でプリントを配布する。

**【参考文献】**

『ITナビゲーター2021年版』野村総合研究所ICTメディアサービス産業コンサルティング部、東洋経済新報社、2020年。

『情報倫理 - 技術・プライバシー・著作権』大谷卓史、みすず書房、2017年。

**【授業外における学習方法及び時間】**

次回授業開始前までに前回学習した内容を復習する(60分)

新聞記事の中から「データサイエンス」、「AI」、「情報社会」に関わる記事を読み、データ駆動型社会・AI社会に対する理解を深める(30分)

**科目名： アプリケーション演習（看）**  
**Practical Study of Computer Software**

担当者名： 近藤 久義

開講期： 後期 学問分野： SOF ソフトウェア

単位： 2 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 情報系科目【演習】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

授業のテーマは、情報社会に対応した科学的思考能力を高めることである。この授業では、情報科学の基礎を学習し、情報とコンピュータの結びつき、コンピュータによる情報処理の理論と操作法の習得を目的(到達目標)とする。具体的には、必要な情報に関する効率的なデータベースの作成と検索、GIS(地理情報システム)ソフトウェアを利用した空間疫学的解析、統計ソフトウェアを利用した医療統計の解析ができるようになることである

**【授業の概要】**

授業は、講義と演習を組み合わせる。講義内容の理解度を確認するために、各自1台のコンピュータを使用して操作練習と課題に取り組む。さらに、理解を深めるためのレポート課題に取り組む。授業の序盤では、データベースに関する解説を受け、アプリケーションソフトAccessを利用した演習に取り組む。授業の中盤では、GISに関する解説を受け、アプリケーションソフトArcMapを利用した演習に取り組む。授業の終盤では、看護統計の基本的な概念を解説し、Excelを利用して統計解析の演習に取り組む。

**【授業計画(1回目)】**

**【データベース演習（Access）1】データベースの基礎**

データベースにおけるフィールド、レコード、テーブルなどについて解説し、理解を深めるとともに、リレーショナルデータベースについても解説する。また、データベースソフトである「Microsoft Access」におけるデータの整理・保存・検索の仕組みと基本的な作業の流れについて解説し、演習を行う。

**【授業計画(2回目)】**

**【データベース演習（Access）2】データベースの作成**

データベース構築の基本であるテーブル設計を行うために必要なデータ型、主キー、フィールドプロパティについて解説し、テーブル設計を演習する。その後、テーブルへのデータエントリの方法について解説し、実際にテーブルへのデータ入力を行う。また、授業内容への理解を深めるために、レポート課題を貸す。

**【授業計画(3回目)】**

**【データベース演習（Access）3】選択クエリの作成と検索の実行**

データベースに格納されているデータを操作するための機能であるクエリについて、種類（選択クエリとアクションクエリなど）と作成手順および検索条件の設定に必要な知識であるワイルドカード文字や演算フィールド、組み込み関数の使用法について解説し、演習を行い、最後にレポート課題を課す。

**【授業計画(4回目)】**

**【データベース演習（Access）4】フォームとレポートの作成**

データの操作やクエリの抽出条件の指定などを行う画面であるフォームとデータベースから必要な情報を抽出し、求められる形式に加工・レイアウトして印刷するためのきのうであるレポートの作成ほうについて解説し、演習を行う。特に、フォームでは、データの読み書き以外の目的で作成される非連結フォームの作成が、レポートでは、フィールドの値ごとに集計した結果を出力するレポートの作成ができるようになることを目標とする。

**【授業計画(5回目)】**

**【データベース演習（Access）5】リレーショナルデータベース（RDB）**

RDBにおけるテーブル分割の必要性と、テーブル同士を関連付けるリレーションシップやその基準となる結合フィールドや参照整合性について学習し、AccessにおけるRDB作成手順を解説し、関連付けしたテーブルに対するクエリを作成するための演習を行う。最後に、レポート課題とAccessに対する総合的な理解を深めるための復習問題を課す。

**【授業計画(6回目)】**

**【統計解析演習1】ヒストグラムの作成と分布の特性値**

統計の基礎知識であるデータの尺度、比率と比の違い、データの特性値、度数について解説し、実データを用いた演習を行う。具体的には、代表値として、3種類の平均値と中央値、最頻値を、散布度として、標準偏差とレンジ、四分位偏差、変動係数をExcelにより計算し比較する。また、データの分布を視覚的に確認するためのヒストグラムを作成する。

**【授業計画(7回目)】**

**【統計解析演習2】二変量データと確率分布**

2つの変量（項目）間の関連性を示す相関と回帰について解説し、演習を行う。さらに、統計的推測で利用される確率分布についても学習と演習を行う。具体的には、2変量間の関連性を視覚的に把握するための散布図の

作成や相関係数の算出、回帰直線の算出をExcelを利用して演習する。また、確率分布の中で最も頻繁に利用される正規分布を理解するために、種々の正規分布曲線を作成するとともに、正規性確認のための正規確率プロットも作成する。

#### 【授業計画(8回目)】

##### 【統計解析演習3】統計的推測(推定)

標本に基づき母集団の特性値を推定する統計的推定に関する解説と演習を行う。具体的には、最初、母平均や母比率、母相関係数の信頼区間を計算する(推定)。この過程に必要なt-分布のパーセント点のExcel関数による求め方についても演習する。次に、母平均に関する仮説検定の方法として、t-検定と分散分析、母比率や無相関性に仮説検定の方法としてt-検定について学習し、演習を行う。

#### 【授業計画(9回目)】

##### 【統計解析演習4】統計的推測(仮説検定)

標本に基づき母集団の特性値の比較を行う統計的仮説検定に関する解説と演習を行う。具体的には、母平均に関する仮説検定の方法として、t-検定と分散分析、母比率や無相関性に仮説検定の方法としてt-検定について学習し、演習を行う。

#### 【授業計画(10回目)】

##### 【統計解析演習5】アンケート調査の解析(クロス集計表と独立性検定)

卒業研究などで行われるアンケート調査の目的や流れ、特に、データの集計と解析について解説し、演習を行う。演習では、観察対象が2つの要因により複数のカテゴリーに分類される場合に、各カテゴリーにおける観察頻度を表にしたクロス集計表をExcelの機能を利用して作成するとともに、「2つの要因が独立(無関係)であるか否か」について統計学的に判断するため(独立性検定)の手順を習得する。この過程に必要なカイ二乗分布のパーセント点の求め方についても学習する。

#### 【授業計画(11回目)】

##### 【統計解析演習6】健康指標の計算(死亡率と年齢調整死亡率, SMR, 罹患率)

国民保健の現状を表す保健統計用語や比率の中の主なものについて解説し、実際に計算する。具体的には、(粗)死亡率と年齢調整死亡率およびSMRの違いと意味を理解するとともに、疾病の発生頻度の基本である罹患率とその算出に必要な人年法を理解するための学習とExcelを利用した演習を行う。特に、年齢調整死亡率に関しては、新型コロナウイルス(COVID19)のデータを利用した47都道府県別の粗罹患率とSIR(標準化罹患比)を計算し、その違いを実感する。

#### 【授業計画(12回目)】

##### 【GIS演習(ArcGIS)1】GISの基礎知識

GIS(地理情報システム)は、現実世界の問題を位置情報を利用して解決するツールである。GISで利用される3つのデータモデル(ベクトルデータ、ラスタデータ、TIN)やマップに追加されたデータを意味するレイヤについて解説する。特に、ベクトルデータに関して、構成要素であるポイントとライン、ポリゴン、フィーチャについて学習し、図形データと属性データとを結合後、属性データの値により分類した地図の作成を既存のマップを利用して演習する。

#### 【授業計画(13回目)】

##### 【GIS演習(ArcGIS)2】検索と解析

対象地域を空間的な位置関係により検索を行う空間検索と、属性データを利用して検索する属性検索について学習し、既存のマップを利用した演習を行う。また、空間的な位置関係に基づいて属性データを結合し、新しいレイヤを作成する空間結合と、フィールドに対して種々の演算を行い、一括して値を出力するフィールド演算についても解説し、既存のマップを利用した演習を行う。

#### 【授業計画(14回目)】

##### 【GIS演習(ArcGIS)3】ジオプロセッシング

空間データに対する様々なデータ処理であるジオプロセッシングについて解説し、演習を行う。具体的には、複数のフィーチャを一つにまとめるディゾルブ、目標物からの一定距離内の領域を表示するバッファ機能を行うためのArcGISでの手順を学習し、既存のマップを利用し体験する。

#### 【授業計画(15回目)】

##### 【GIS演習(ArcGIS)4】クラウドサービスを利用したジオコーディングと分類地図の作成

1組の座標や住所などの位置情報を、地球表面の位置に変換するプロセスであるジオコーディングについて解説し、マップの作成や利用を行うためのクラウドGISであるArcGIS Onlineを利用して、大村市内の医療機関を住所情報をもとに地図上にジオコーディングする演習を行い、空間結合とフィールド演算を利用して、作成した大村市内の医療機関のマップに基づき、町丁・字別の人口1,000人当たりの医療機関数を計算し、計算した値により分類(色分け)した地図を作成する。また、「統計解析演習6」で求めたCOVID19の都道府県別のSIRの値で分類した地図も作成する。

#### 【授業計画(16回目)】

定期試験

#### 【評価方法及び基準】

期末試験 40%

提出課題 50% 全部で20題程度の課題を予定している。授業終了までに全ての課題の提出を前提とし、提出がない場合は減点する。

授業への取り組み状況 10% 質問や意見などをもって授業への積極的参加を判断する。毎回の出席が前提である。

#### 【テキスト】

授業内容に応じた資料を配布する。

#### 【参考文献】

特に指定しない。

#### 【授業外における学習方法及び時間】

次回授業範囲について配布資料を事前に読み、専門用語（特に統計用語）については、その意味の理解につとめ、不明な点は質問すること（60分）。さらに、授業で学習した操作方法に関して、授業終了後に応用練習を行い、理解を深めることを薦める（30分）。

#### 【課題に対するフィードバック】

課題提出後に、内容を詳細に確認し、理解不足や問題点などがあつた場合には、授業時間内に解説する。

**科目名： アプリケーション演習**

**Practical Study of Computer Software**

担当者名： 梅本 雄史

開講期： 後期

学問分野： SOF ソフトウェア

単位： 2

配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル)

科目区分： キャリア支援科目【演習】

#### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

WordおよびExcelについて、グループで共有することを目的としたフォーマットを製作します。ワークフローの改善を意識した効率的なアプリケーションの運用が出来るようになります。

#### 【授業の概要】

スタイル機能や目次・索引作成などの長文機能、他のアプリケーションソフトからのデータ取り込みなど、Wordの高度な機能を使った演習を行います。また、ピボットテーブルなどのデータ分析、条件付き書式や入力規則の設定、マクロの作成・編集など、Excelの高度な機能を使った演習を行います。

#### 【アクティブ・ラーニング】

一人1台のコンピュータを用いて実習を行い、学生同士が互いに教え合いながら課題をクリアしていく。

#### 【授業計画(1回目)】

Word演習1

文書の共有と管理

- ・ Word のオプションを設定する
- ・ 文書を保護する
- ・ 文書にテンプレートを適用する

#### 【授業計画(2回目)】

Word演習2

コンテンツの書式設定

- ・ フォントや段落に高度な書式を適用する
- ・ 表やグラフを作成する
- ・ 文書内の再利用可能なコンテンツを構成する
- ・ セクションをリンクする

#### 【授業計画(3回目)】

Word演習3

文書の変更履歴と参考資料1

- ・ 文書を校閲する、比較する、組み込む
- ・ 参考資料のページを作成する

#### 【授業計画(4回目)】

Word演習4

## 文書の変更履歴と参考資料2

- ・文書内に引用文献一覧を作成する
- ・文書内に索引を作成する

### 【授業計画(5回目)】

#### Word演習5

##### 差し込み印刷の実行

- ・差し込み印刷を実行する
- ・他のデータソースを使用して差し込み印刷文書を作成する
- ・ラベルやフォームを作成する

### 【授業計画(6回目)】

#### Word演習6

##### マクロとフォームの管理1

- ・マクロを適用する、操作する
- ・マクロのオプションを適用する、操作する

### 【授業計画(7回目)】

#### Word演習7

##### マクロとフォームの管理2

- ・フォームを作成する
- ・フォームを操作する

### 【授業計画(8回目)】

#### Excel演習1

##### ブックの共有と管理1

- ・ブックの設定、プロパティ、データオプションを適用する

### 【授業計画(9回目)】

#### Excel演習2

##### ブックの共有と管理2

- ・ブックやワークシートに保護や共有のプロパティを適用する
- ・共有ブックを管理する

### 【授業計画(10回目)】

#### Excel演習3

##### 数式と関数の適用1

- ・数式を分析する
- ・数式オプションを操作する

### 【授業計画(11回目)】

#### Excel演習4

##### 数式と関数の適用2

- ・データの集計作業を実行する
- ・数式に関数を適用する

### 【授業計画(12回目)】

#### Excel演習5

##### 視覚的なデータの表示1

- ・高度なグラフの機能を適用する
- ・データを分析する

### 【授業計画(13回目)】

#### Excel演習6

##### 視覚的なデータの表示2

- ・ピボットテーブルを適用する、操作する
- ・ピボットグラフを適用する、操作する
- ・スライサーの使い方を示す

### 【授業計画(14回目)】

#### Excel演習7

##### マクロとフォームの操作1

- ・マクロを作成する、操作する

### 【授業計画(15回目)】

#### Excel演習8

##### マクロとフォームの操作2

- ・フォームコントロールを挿入する、操作する

**【評価方法及び基準】**

小テスト20%、課題の合計点80%

**【テキスト】**

特になし

**【授業外における学習方法及び時間】**

次回の授業開始前までに前回学習した内容を復習し、作業内容をしっかり理解しておくこと(90分)

**【課題に対するフィードバック】**

ポートフォリオなどを使用してフィードバックを行う。

**【実務経験】**

【実務家教員】システムエンジニア、プログラマーとして、POSシステムなどのシステム開発を行った経験を生かし、キャリア教育を行っている。

**科目名：メディアリテラシー論**  
**Lecture on Media Literacy**

担当者名： 湯口 隆司

開講期： 後期 学問分野： JLT 日本文学

単位： 2 配当年次： 1年

難易度： 1(大学1年次レベル) 科目区分： 学内の他学部・学科に開放する科目/国際文化学部 日本文化学科 【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

受講者はメディアに対しての批判的な見方、読み方、聞き方、利用の仕方を振り返り、メディア接触の自律的な方法と姿勢を身に付けることができる（これがメディアリテラシーの定義です）。

また受講者は各種メディアの共通項として、自由の役割、メディア法制度、言論の自由があり、その切り口から、メディア関連の裁判例、近代のエレクトロニクス革命、ネット検索を支えるディープラーニングやAIの仕組み、GAFAによる寡占化と問題点など諸問題の存在の確認ができ、あわせて批判的メディア接触ができる。

**【授業の概要】**

リテラシーがなぜ必要か、その疑問から授業を始める。それは民主国家では個人の思想と言論が保障され、ことば以外に文字や映像、動画などを自由にかつ不特定多数に伝達し、その情報に自由に接触（アクセス）することが法律でみとめられているからです。

その理解と権利ためにはメディア特性、情報の伝達の仕組み、メディア特性、それらを支える社会の法律制度の理解が必須です。その習得によりメディア・リタレイトされた接触態度を生活の中で身に付けることができます。

そのための技能と知識のことを「メディアリテラシー」と言います。

メディアに関係する諸要素を基本から説明します。それらはこれから大学の専門分野で学なぶ際にも基本的な素養となるでしょう。

**【アクティブ・ラーニング】**

歴史的な出版と表現の自由をめぐる書物の紹介、一部分の講読により、意見交換する。また、後半においては日常のニュースだけでなく日常のスマホ経由からの情報について、GAFAによるネットプラットフォームの課題、情報の自由、画像認識などについても各自のスマホを活用し、関係する料を見つけ、確認作業をしていきます。

**【授業計画(1回目)】**

メディアリテラシーとは オリエンテーション  
原理と活用

**【授業計画(2回目)】**

言語（ことば）の基本的構造  
メディア情報には言語、映像、音、動画など様々です。その基本である言語も音声の「ことば」と「ことば」が視覚化された文字（アルファベット）があります。言語に関してのソシュールの理論、認知と知覚、抽象と一般化などの音声と文字との違いを確認します。言語識字（リテラシー）の有無が与える認知作用、文字教育の有無による認知バイアスについても考えます。

**【授業計画(3回目)】**

コミュニケーションの要素  
意味的、文化的、心理的なノイズの理解について概論です。

**【授業計画(4回目)】**

声のことば（音声）と文字の言葉（言語）の違い  
印刷とラジオ、テレビ、映画などを比較して、言語には声と文字のメディアがあることを確認し、メディアの違いにより作用の違いを説明します。

「ホメロス問題」からわかること、『イリアス』、『旧約聖書』からみる声と文字の文化とその特徴を概観します。

**【授業計画(5回目)】**

文字から活字へ  
ギリシア文化とキリスト教の影響と文字文化・教育への影響  
ソフィスト、ユダヤの預言者、議論、討論、対話、ディベートの強調（聖書とプラトンを例に）

情報の伝達の歴史：道と技術、メディアとテクノロジー

日本の場合：熊野講、伊勢講と情報の伝達の道（道、海の道、交通網、通信網へ）

西洋の場合：大学、僧侶のメディア伝達の役割

#### 【授業計画(6回目)】

印刷・出版と技術（テクノロジー）

15世紀からの大きな発展：不特定多数（マス）の読者の出現

活版印刷術と西洋市民社会の誕生

羊皮紙から活版へ：なにが違ったのか、何が起きたか、思想と自由への締め付け

ルネッサンスの3大発明の社会的インパクトとは。

#### 【授業計画(7回目)】

印刷メディアと自由、検閲

検閲の歴史：検閲と規制は手書き時代はほとんどなかった。

印刷術の発明と展開：国王や教会による検閲と規制へ

出版の自由を求める動き（16世紀英国）から「権利の章典」へ：議会対既存勢力

#### 【授業計画(8回目)】

規制と抵抗とメディアの発展

課税と言論、免許制、印紙税

英国、フランス、米国の独立戦争

日本の浮世絵の検閲

広汎な情報拡散：郵便制度・鉄道網の役割

英国名誉革命、米国独立戦争、フランス革命：米国憲法修正第一条へ

#### 【授業計画(9回目)】

体制批判とメディア：政治思想と自由をめぐる戦い

王権神授説と議会との闘い（英国史）

ホブス、ミルトン、ジョン・ロックらの思想が果たしたメディアの自由への役割

代表的書物（日本語訳）の紹介と説明、各自の意見、思想の自由市場とイエロー・ジャーナリズム

#### 【授業計画(10回目)】

マス・メディア革命（19世紀末から）

第一次産業革命、第二次産業革命からモードの結合（エレクトロニクス革命へ）

電信の革新：電波特性

「道」としての電波（中波、マイクロ波）スマホと電波

#### 【授業計画(11回目)】

メディアを規制するもの

権利章典：出版と言論の自由をめぐる判例からみたメディアの自由と制限

「明白かつ現在の危険」判例と米国憲法修正第一条をめぐる自由とメディア規制。

基本的人権とメディアとの関係について。

米最高裁判決の重要判例（ペンタゴン・ペーパーズ裁判など）から20世紀のメディアと知る権利、表現の自由について（判例紹介と感想、討議）

#### 【授業計画(12回目)】

情報とAI その

エレクトロニクス革命

GAFAの寡占化、自由から見た課題とはなにか。モバイル情報機器とAI、ビッグデータとAIとの関連について

#### 【授業計画(13回目)】

情報とAI その

人工知能ブームまでのエレクトロニクス革命の変遷と確率論

「ベイズの定理」などを簡単に説明します。

#### 【授業計画(14回目)】

人工知能の種類と言論・表現の自由をめぐる議論

その問題点とは何か。最近のニュースなどを用いて身近な課題となっていることを知る

機械学習とディープラーニングについて：日常のメディア利用でネット使用の課題を討議する

#### 【授業計画(15回目)】

振り返りと講評

#### 【授業計画(16回目)】

定期試験実施

#### 【評価方法及び基準】

期末テスト 50%

(感染症によるオンライン授業の場合には数回の課題提出レポートの評価のみ)。

メディア分析の課題提出レポート 50%

課題テーマの理解度 30%

論理性 20%

#### 【テキスト】

『メディア・リテラシー』(カナダ・オンタリオ州教育省編 湯口共訳、リベルタ出版 1992年)

メディア・リテラシーの基本的技能の説明をしている書物です。

その他の資料：日々の新聞、テレビ、インターネット、スマホなどの情報内容 特に広告、写真、ニュースなどを素材とする。

近年のデジタル化したメディア環境とその課題については授業で指示します。また独禁法や個人情報の問題については直前の日刊紙を用い、例題として使用します。

#### 【参考文献】

『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』(湯口他 共著、世界思想社 1997年)を参照。メディア・リテラシーの理論面での参考文献です。

『クラウドからAIへ』(小林雅一著、朝日新書、2013年)がAIやディープラーニング等簡便に参考できる内容です。その他の判例等の資料は授業の際に必要なに応じて指定します。

#### 【授業外における学習方法及び時間】

(予習) 授業進度に合わせ、対象のメディアの特性、使用頻度、内容などについて自覚的な使用となっているかについて日常のメディア利用時間を意識して使用する(90分)。特に音声の言葉と文字言語とが同じメディアでないことの発見を自覚することをスタートとしたい。

(復習) スマホなどを含め、写真や音、また素材について意識的に情報を収集する。新聞の切り抜き、ニュース原稿の素材となる内容収集、スマホを支える技術やプラットフォームの言論と思想の自由からみた課題に注意をしてメディア閲覧を行うこと、授業中に関係する小テストを実施する(90分)

#### 【課題に対するフィードバック】

課題や小テスト内容に対して、他の学生やグループ、さらに教員からのコメントや指摘を考察し、授業の中で紹介議論します。毎回、メディアリテラシーの原理に立ち返ってのメディア接触を喚起します。

#### 【実務経験】

【実務家教員】団体経営(ラジオ・テレビ、CD制作など)の20数年間の実務経験。制作および経営サイドの経験を生かした指導と説明を行っている。

#### 【DP(ディプロマ・ポリシー)との関連】

日DP4

科目名：疫学・保健統計

Epidemiology/Health Statistics

担当者名：永田 耕司

開講期：後期

学問分野：EPM 疫学・予防医学

単位：2

配当年次：2年

難易度：2(大学2年次レベル)

科目区分：看護学科【講義】

### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

#### (1) 知識・理解の観点

- 1) 保健統計について知識を深める
- 2) 様々なデータの分析と疫学手法を関係づけができる
- 3) 相対危険度・寄与危険度を理解できる
- 4) スクリーニングの精度(感受度、特異度、陽性反応的中率等)について理解できる
- 5) 平均値・中央値・標準偏差について説明できる

#### (2) 思考・判断・表現の観点

- 1) コホート研究、症例対照研究、無作為化比較試験、生態学的研究を類別できる
- 2) 質的データと量的データの相違を指摘できる
- 3) 様々なデータについて、適切な疫学手法について思考しながら、最も適切な手法を判断して、電卓を用いて計算できる
- 4) 帰無仮説を表現できる

### 【授業の概要】

統計の人口動態統計と静態統計を学び、粗死亡率と年齢調整死亡率の違い、有病率と罹患率、致死率の違いについて学習する。データ収集にあたりバイアス、交絡について学習する。また質的・量的データによって統計処理の違いがあることを説明する。正規分布と度数分布、二項分布についても学習する。平均値「中央値、最頻値」、分散「標準偏差」、帰無仮説の考え方について理解する。t検定「平均値の差の検定」と2乗検定などSPSSを用いて学習する。疫学調査について横断調査、生態学的研究、症例対照研究、コホート調査、無作為化比較試験について理解を深める。また相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合、及びスクリーニング調査の精度(感受度と特異度、偽陰性と偽陽性、陽性反応的中率)についても学ぶ。

#### G10

帰無仮説など疫学統計の基本的な考え方や全般的な理解を高めるために、疫学への関心を深め、望ましい疫学の仮説の推定等の方法や様々な統計処理能力を習得する。

#### SBO

- ・保健統計を用いて疫学への関心を高める(態度・習慣)
- ・粗死亡率と年齢調整死亡率、有病率と罹患率、致死率、スクリーニング調査の精度、記述疫学・分析疫学・介入研究等の理解(知識)
- ・相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合の算出できる(技能)
- ・疫学で用いられる統計的処理ができる(技能)
- ・検定の考え方(帰無仮説)の理解と仮説を立てることができる(知識・技能)

### 【アクティブ・ラーニング】

小テストを6回・保健統計を用いて疫学への関心を高める

#### 【授業計画(1回目)】

保健統計について、人口静態統計(年少人口、生産年齢人口、高齢人口)と人口動態統計(死亡、出生、婚姻、離婚)、母子に関する保健統計(合計特殊出生率と出生率、死産率と周産期死亡率と乳幼児死亡率、低出生児と未熟児)

#### 【授業計画(2回目)】

疫学で用いられる指標：粗死亡率と年齢調整死亡率、有病率と罹患率、致死率、小テスト1

#### 【授業計画(3回目)】

分析疫学 危険要因を見出すための研究(横断調査、生態学的研究、縦断調査)について

#### 【授業計画(4回目)】

コホート調査「前向き調査」と相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合の理解

#### 【授業計画(5回目)】

症例対照研究「後ろ向き調査」の中でのオッズ比(相対危険度の近似値)の理解

### 【授業計画(6回目)】

介入研究としての無作為化比較試験、小テスト2

### 【授業計画(7回目)】

データの種類 質的・量的データ、正規分布と度数分布、二項分布の理解

### 【授業計画(8回目)】

量的変数の統計、平均値「中央値、最頻値」、分散「標準偏差」の求め方

### 【授業計画(9回目)】

疫学で用いられる統計的処理とその解釈

### 【授業計画(10回目)】

検定の考え方 帰無仮説、t検定「平均値の差の検定」と2乗検定と相関係数「回帰直線」、多変量解析、小テスト3

### 【授業計画(11回目)】

仮説の実際的な立て方

### 【授業計画(12回目)】

データを使つてのSPSSの実際の使い方(情報処理教室)実際にパソコンを使ってSPSSを使いこなしてみましよう。

### 【授業計画(13回目)】

スクリーニング調査の精度(感度と特異度、偽陰性と偽陽性、陽性反応的中率)小テスト4

### 【授業計画(14回目)】

因果関係、データの偏りに関して(バイアス、交絡因子、層化抽出、マッチング、年齢調整)小テスト5

### 【授業計画(15回目)】

疫学・保健統計のまとめ、これまでの小テスト5回の再解説

### 【授業計画(16回目)】

定期試験

### 【評価方法及び基準】

- ・評価、及び基準 授業の取り組み状況、課題の取り組み状況 6回の小テスト20%、
- ・定期試験80%
  - 1)粗死亡率と年齢調整死亡率、有病率と罹患率、致死率 15%
  - 2)相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合の算出 15%
  - 3)平均値・中央値・標準偏差について 10%
  - 4)スクリーニング調査の精度、記述疫学・分析疫学・介入研究等の理解 20%
  - 5)検定の考え方(帰無仮説)の理解と仮説
  - 6)その他、点滴滴下数他 20%

### 【テキスト】

資料を配布する

### 【参考文献】

『国民衛生の動向』1:厚生労働統計協会、(2020/2021)

『はじめて学ぶやさしい疫学-疫学への招待-改訂第2版』、田中平三編集 日本疫学会監修、南江堂、2010年

### 【授業外における学習方法及び時間】

・授業外における学習方法・・・次回の授業範囲に関する資料を調査して、小テスト(1.粗死亡率と年齢調整死亡率、有病率と罹患率、致死率について30分 2.相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合の算出できる 30分 3.平均値・中央値・標準偏差について 30分 4.スクリーニング調査の精度、記述疫学・分析疫学・介入研究等の理解 30分 5.検定の考え方(帰無仮説)の理解と仮説 30分 6.その他、点滴滴下数他)の解説や専門用語などの意味を調べて理解しておく。30分 計180分

### 【課題に対するフィードバック】

・課題に対するフィードバック 小テストを6回(1.粗死亡率と年齢調整死亡率、有病率と罹患率、致死率 2.相対危険度、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険割合の算出できる 3.平均値・中央値・標準偏差について 4.スクリーニング調査の精度、記述疫学・分析疫学・介入研究等の理解 5.検定の考え方(帰無仮説)の理解と仮説 6.その他、点滴滴下数他)行い、その後小テストの解説を行う。

### 【実務経験】

【実務家教員】医師の実務経験あり。この経験を活かした実践教育を行っている。

### 【DP(ディプロマ・ポリシー)との関連】

看DP3 / 看DP4

**科目名：看護医療情報学****Information Systems for Medical Care and Nursing**

担当者名：井上 高博/出口 由美

開講期：後期

学問分野：LHM 生命・健康・医療情報学

単位：1

配当年次：2年

難易度：2(大学2年次レベル)

科目区分：看護学科【講義】

**【授業における学修の到達目標及びテーマ】**

GIO

看護師に求められる看護情報学の基礎的な知識を理解し、情報を取り扱う専門職者としての情報倫理を養う。

SBO

1. 看護における情報の活用と記録、共有の意義を説明できる。
2. 情報リテラシーに関する看護師の役割を説明できる。
3. 情報倫理に関する看護師の役割を説明できる。
4. 医療情報システムについて説明できる。
5. 臨地実習における情報の取り扱いを理解し、学生としての課題を説明できる。

**【授業の概要】**

安全で質の高い看護を提供するためには、看護を必要としている対象とその家族の情報を収集し、実践した看護を記録するだけでなく、活用していくことが必要である。情報は看護職だけでなく、他職種の専門職と共有するためにも、情報の価値を高めるため用語の標準化、必要な情報を見極め活用するための情報リテラシーの向上が求められる。

本科目では、医療および看護の記録に関する既習内容を活用し、看護情報学の基礎的知識と、日本の動向（遠隔看護、ビックデータ、AI（人工知能）の活用）から、価値ある看護の情報とは何かを考える機会としたい。そして、今後の臨地実習で、個人情報を取り扱うための情報倫理に関する個人の課題を明確に説明できることを到達目標とする。

【キーワード】看護情報学、情報倫理、情報リテラシー、看護必要度、診療報酬、ビックデータ、AI、地域包括ケアシステム

**【アクティブ・ラーニング】**

プレゼンテーション、グループワーク

**【授業計画(1回目)】**

1. 看護情報学とは何か（定義、目的、取り扱い）
  2. 情報データとは何か（定義、目的、取り扱い）
  3. 看護情報管理の知識と技術とは何か
- 【課題評価10%】3.について、看護師の役割をレポートにまとめ提出する。

**【授業計画(2回目)】**

1. 情報リテラシーとは何か（定義、目的、取り扱い）
  2. 電子メール・ウェブ等のインターネットサービスの仕組み
  3. 情報セキュリティの維持向上のための技術とは何か
- 【課題評価10%】3.について、看護師の役割をレポートにまとめ提出する。

**【授業計画(3回目)】**

1. 情報倫理とは何か（定義、目的、取り扱い）
  2. 電子カルテに関する情報倫理的課題
  3. 病院看護における情報システムの活用
  4. 臨地実習における個人情報の取り扱い
    - 1) 実習記録の取り扱い
    - 2) 実習中のメモに関する取り扱い
    - 3) SNSの利用
- 【課題評価10%】4.について、学生としての役割をレポートにまとめ提出する。

**【授業計画(4回目)】**

1. テーマについて、学生間の課題をグループ間で検討し、行動目標レベルで課題を説明する。その1テーマ案；臨地実習での個人情報の収集、活用、共有について、学生が行う必要があることは何か
  - 1) 個人でテーマについて準備をする。
  - 2) グループ間で、他者の意見を聞き、検討する。
  - 3) 他のグループへ説明する準備をする。

【評価 その1・2合わせて50%】グループ間での意見交換、とりまとめへの参画

### 【授業計画(5回目)】

1. テーマについて、学生間の課題をグループ間で検討し、行動目標レベルで課題を説明する。その2  
テーマ案；臨地実習での個人情報の収集、活用、共有について、学生が行う必要があることは何か
- 1)他のグループへまとめた意見を説明する。
- 2)他のグループの意見を聞き、自分の意見を再考する。

【評価 その1・2合わせて50%】グループ間での意見交換、とりまとめへの参画

### 【授業計画(6回目)】

1. 医療情報システムとは何か（定義、目的、取り扱い）
2. 看護における情報システムの活用 遠隔看護とは何か（定義、目的、取り扱い）
3. 在宅療法者へのテレナーシングの実際
4. 医療現場で活用が期待されるAI（人工知能）の紹介

【課題評価】3または4について、看護師の役割をレポートにまとめ提出する。

### 【授業計画(7回目)】

1. 看護用語の標準化とは何か（定義、目的、取り扱い）
2. 電子カルテシステムとは何か（定義、目的、取り扱い）
3. オーダーエントリーシステムとは何か（定義、目的、取り扱い）

### 【授業計画(8回目)】

【学外講師予定】

1. 地域連携クリティカルパスとは何か
2. 仮テーマ；長崎県における情報システムの活用、長崎医療センターでの活用

【課題評価】講義を聞き、これからの地域包括システムで看護における課題をレポートにまとめ提出する。

### 【授業計画(9回目)】

### 【授業計画(10回目)】

### 【授業計画(11回目)】

### 【授業計画(12回目)】

### 【授業計画(13回目)】

### 【授業計画(14回目)】

### 【授業計画(15回目)】

### 【評価方法及び基準】

1. 課題評価レポート(50%)
  - 1)医療および看護情報を取り扱う看護師の役割について、テキストおよび自分が調べた文献を活用して述べる。
2. プレゼンテーション・グループワークへの参画（50%）
  - 1)情報管理に関する看護師の役割について、説明ができる。
  - 2)情報倫理については、臨地実習での自分の課題と学生間の課題、それぞれの予防策を述べるができる。

### 【テキスト】

太田勝正・前田樹海：エッセンシャル看護情報学 第3版 医歯薬出版 2020

### 【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

### 【授業外における学習方法及び時間】

予習においてはテキストの該当章、関連書籍の該当内容を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。  
また、関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。

予習：次回の講義範囲の予習する内容を説明するので、学習しておくこと（90分）

復習：毎回の講義後、講義資料および教科書を確認し、理解しておくこと（90分）

### 【課題に対するフィードバック】

講義終了時にレスポンスカードを記載し、次回の講義時にコメントをフィードバックする。また、個人課題レポートは、全体の学生に文書もしくは口頭でコメントする。

### 【実務経験】

【実務家教員】看護師の実務経験あり。この経験を活かした実践教育を行っている。

**【DP(ディプロマ・ポリシー)との関連】**

看DP2

**科目名：情報科学**

**Information and Computer Science**

担当者名：梅本 雄史

開講期：後期

学問分野：SC0 ソフトコンピューティング

単位：2

配当年次：1年

難易度：1(大学1年次レベル)

科目区分：情報系科目【講義】

### 【授業における学修の到達目標及びテーマ】

情報科学について、特定のソフトウェアによらない、一般的で基礎的な事項を学ぶことで、コンピュータやネットワークの動作の背景、問題解決手法としてのコンピュータの利用などを説明できるようになる。また、近年、注目されているデータサイエンスやAIを支える技術の基礎的な活用ができるようになる。

### 【授業の概要】

情報科学について、一般的で基礎的な事項を取り扱う。具体的には、コンピュータの動作などのハードウェアの話題から始めて、アルゴリズムとプログラミング言語、データベース、シミュレーション、コンピュータグラフィックスなどのソフトウェアの話題を取り上げていく。講義内容についての理解を深めるため、無償ソフトを用いた実習を取り入れる。

### 【アクティブ・ラーニング】

一人1台のコンピュータを用いて実習を行い、学生同士で適宜教え合う。

### 【授業計画(1回目)】

情報のデジタル表現

### 【授業計画(2回目)】

コンピュータの基本構成と動作

### 【授業計画(3回目)】

オペレーティングシステム

### 【授業計画(4回目)】

ネットワーク(1)：ネットワークの基礎

### 【授業計画(5回目)】

ネットワーク(2)：インターネット

### 【授業計画(6回目)】

アルゴリズム(1)：アルゴリズムの概念と表現

### 【授業計画(7回目)】

アルゴリズム(2)：基本的なアルゴリズム、アルゴリズムの効率性

### 【授業計画(8回目)】

プログラミング言語(1)：概観、データ型

### 【授業計画(9回目)】

プログラミング言語(2)：制御文、関数

### 【授業計画(10回目)】

プログラミング言語(3)：オブジェクト

### 【授業計画(11回目)】

データベース(1)：関係データベース

### 【授業計画(12回目)】

データベース(2)：データベース管理システム

### 【授業計画(13回目)】

コンピュータグラフィックス

### 【授業計画(14回目)】

情報通信技術の進展

### 【授業計画(15回目)】

演習問題

### 【授業計画(16回目)】

定期試験

### 【評価方法及び基準】

プリントやファイルなどの提出物50%、期末試験50%の割合で評価する。

ただし、欠席1回あたり2点を成績点から減点する。減点は最高10点までとし、出席による加点はない。

### 【テキスト】

特になし

**【課題に対するフィードバック】**

ポートフォリオなどを使用してフィードバックを行う。

**【実務経験】**

【実務家教員】システムエンジニア、プログラマーとして、POSシステムなどのシステム開発を行った経験を生かし、キャリア教育を行っている。

# Kwassui M-DASH Literacy プログラム

(2021年度以降入学生 対象)

## 【「Kwassui M-DASH Literacy」の学習到達目標】

- ① 数理・データサイエンス・AI技術が、社会変化や私たちの生活に密接に結びついていることが説明できるようになる。
- ② 数理・データサイエンス・AI技術が、日常生活や社会のあらゆる課題解決に資する有用なツールであることが説明でき、それを活用することができるようになる。
- ③ あらゆる場面で、数理・データサイエンス・AI技術が活用されていることが説明できるようになる。
- ④ あらゆる場面で、数理・データサイエンス・AI技術を活用するにあたって配慮すべき倫理的課題や情報セキュリティに関する知識・技能を活用することができるようになる。
- ⑤ 社会で活用されている実データを題材に、「データを読み、説明し、扱う」といった一連の作業を実践できるようになる。
- ⑥ 数理・データサイエンス・AI技術の基本的技術である、アルゴリズム・データ構造・プログラミングに関する基礎的知識・技術を活用できるようになる。



## 【「Kwassui M-DASH Literacy」を構成する科目表】

1 年次：()内の数字は単位数		2 年次：()内の数字は単位数	
前期	後期	前期	後期
◎教養セミナー(1) (学習到達目標：①・③)	◎キャリアデザインセミナー(1) (学習到達目標：①・②・③・⑤)	●疫学・保健統計 I (2) (学習到達目標：②・⑤)	◇看護医療情報学(1) (学習到達目標：①・③・④)
◎情報処理基礎(2) (学習到達目標：④・⑤)	◆アプリケーション演習(2) (学習到達目標：④)		
	ITの発展と生活(2) (学習到達目標：①・②・③・④)		
	○メディアリテラシー論(2) (学習到達目標：①・②・③・④)		
	情報科学(2) (学習到達目標：⑥)		

### 【プログラムの修了要件】

国際文化学部・音楽学部・健康生活学部の学生

⇒ ◎の科目を必修とし、4単位以上を修得すること。

看護学部の学生

⇒ ◎と●の科目を必修とし、6単位以上を修得すること。

### 【科目の記号】

◎：プログラムを修了するための必修科目

◆：全学部で開講されている科目

○：他学部他学科開放科目（全学部学生が履修可能）

●：看護学部のみで開講されたプログラムを修了するための必修科目

◇：看護学部のみで開講されている科目

58 無印：国際文化学部・音楽学部・健康生活学部で開講されている科目

## ○活水女子大学教養教育センター規程

(目的)

**第1条** 本大学の教養教育を統括し、その充実に寄与することを目的として、教養教育センター（以下「センター」という。）を設置する。

(構成員)

**第2条** 本センターは、大学の全専任教員（以下「センター員」という。）をもって構成する。

(機関)

**第3条** 本センターの機関として以下を置く。

- (1) センター長
- (2) 教養教育センター運営会議（以下「運営会議」という。）  
(センター長)

**第4条** センター長は、教授会選挙により選出し、院長がこれを任命する。

- 2 センター長は、投票数の過半数の得票をもって選出する。過半数を得る者がいない場合、上位者のみを候補として、過半数を得る者が出るまで投票を繰返す。
- 3 センター長は本センターを代表及び統括する。
- 4 センター長は運営会議を招集し、議長の任に当たる。
- 5 センター長は学務委員を兼ね、本センターを代表して、学務委員会での提案・審議・議決を行う。
- 6 センター長は、必要に応じて、全センター員に情報提供を行う。

(運営会議)

**第5条** 運営会議は、以下のメンバーにより構成する。

- (1) センター長
  - (2) センター長が指名した3名以上の運営委員
- 2 運営会議は、次の事項を審議する。
- (1) センターの日常的運営に関わる事項
  - (2) 教養教育科目のカリキュラムに関わる事項
  - (3) その他、センター長が適当と認める事項

(センター員)

**第6条** センター員は、運営会議で審議を希望する項目を、随時文書で、センター長に提出することができる。

(会議)

**第7条** 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。議決は出席者の過半数でこれを決し、賛否同数のときは議長がこれを決する。この規程の改廃に関する議決は、出席者の3分の2以上の賛成を要する。

- 2 センター長は運営会議に、必要に応じ、構成員以外の教員・職員を出席させて意見を聴くことができる。ただし、構成員以外の出席者は、議決に加わることができない。

(任期)

**第8条** センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げないが、再任の任期は1年とし、連続3選はできない。

- 2 運営委員の任期は2年とする。

(事務)

**第9条** 本センターに事務室を設置し、学院の指定する職員を置く。

(改正)

**第10条** この規程の改正は、教授会の承認を得なければならない。

(改廃)

**第11条** この規程の改廃は、教授会の議を経て、運営協議会の承認を得なければならない。

### 附 則 1

この規程は、1998年（平成10年）4月1日から施行する。

### 附 則 2

この規程は、1999年（平成11年）7月1日から施行する。

### 附 則 3

この規程は、2000年（平成12年）5月2日から施行する。

### 附 則 4

この規程は、2005年（平成17年）4月1日から施行する。

**附 則 5**

この規程は、2005年（平成17年）7月8日から施行する。

**附 則 6**

この規程は、2020年（令和2年）4月1日から施行する。

## ○活水女子大学教養教育センター規程

(目的)

**第1条** 本大学の教養教育を統括し、その充実に寄与することを目的として、教養教育センター（以下「センター」という。）を設置する。

(構成員)

**第2条** 本センターは、大学の全専任教員（以下「センター員」という。）をもって構成する。

(機関)

**第3条** 本センターの機関として以下を置く。

- (1) センター長
- (2) 教養教育センター運営会議（以下「運営会議」という。）  
(センター長)

**第4条** センター長は、教授会選挙により選出し、院長がこれを任命する。

- 2 センター長は、投票数の過半数の得票をもって選出する。過半数を得る者がいない場合、上位者のみを候補として、過半数を得る者が出るまで投票を繰返す。
- 3 センター長は本センターを代表及び統括する。
- 4 センター長は運営会議を招集し、議長の任に当たる。
- 5 センター長は学務委員を兼ね、本センターを代表して、学務委員会での提案・審議・議決を行う。
- 6 センター長は、必要に応じて、全センター員に情報提供を行う。

(運営会議)

**第5条** 運営会議は、以下のメンバーにより構成する。

- (1) センター長
  - (2) センター長が指名した3名以上の運営委員
- 2 運営会議は、次の事項を審議する。
- (1) センターの日常的運営に関わる事項
  - (2) 教養教育科目のカリキュラムに関わる事項
  - (3) その他、センター長が適当と認める事項

(センター員)

**第6条** センター員は、運営会議で審議を希望する項目を、随時文書で、センター長に提出することができる。

(会議)

**第7条** 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。議決は出席者の過半数でこれを決し、賛否同数のときは議長がこれを決する。この規程の改廃に関する議決は、出席者の3分の2以上の賛成を要する。

- 2 センター長は運営会議に、必要に応じ、構成員以外の教員・職員を出席させて意見を聴くことができる。ただし、構成員以外の出席者は、議決に加わることができない。

(任期)

**第8条** センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げないが、再任の任期は1年とし、連続3選はできない。

- 2 運営委員の任期は2年とする。

(事務)

**第9条** 本センターに事務室を設置し、学院の指定する職員を置く。

(改正)

**第10条** この規程の改正は、教授会の承認を得なければならない。

(改廃)

**第11条** この規程の改廃は、教授会の議を経て、運営協議会の承認を得なければならない。

### 附 則 1

この規程は、1998年（平成10年）4月1日から施行する。

### 附 則 2

この規程は、1999年（平成11年）7月1日から施行する。

### 附 則 3

この規程は、2000年（平成12年）5月2日から施行する。

### 附 則 4

この規程は、2005年（平成17年）4月1日から施行する。

**附 則 5**

この規程は、2005年（平成17年）7月8日から施行する。

**附 則 6**

この規程は、2020年（令和2年）4月1日から施行する。

# Kwassui M-DASH Literacy プログラム

(2021年度以降入学生 対象)

## 【「Kwassui M-DASH Literacy」の学習到達目標】

- ① 数理・データサイエンス・AI技術が、社会変化や私たちの生活に密接に結びついていることが説明できるようになる。
- ② 数理・データサイエンス・AI技術が、日常生活や社会のあらゆる課題解決に資する有用なツールであることが説明でき、それを活用することができるようになる。
- ③ あらゆる場面で、数理・データサイエンス・AI技術が活用されていることが説明できるようになる。
- ④ あらゆる場面で、数理・データサイエンス・AI技術を活用するにあたって配慮すべき倫理的課題や情報セキュリティに関する知識・技能を活用することができるようになる。
- ⑤ 社会で活用されている実データを題材に、「データを読み、説明し、扱う」といった一連の作業を実践できるようになる。
- ⑥ 数理・データサイエンス・AI技術の基本的技術である、アルゴリズム・データ構造・プログラミングに関する基礎的知識・技術を活用できるようになる。



## 【「Kwassui M-DASH Literacy」を構成する科目表】

1 年次：()内の数字は単位数		2 年次：()内の数字は単位数	
前期	後期	前期	後期
◎教養セミナー(1) (学習到達目標：①・③)	◎キャリアデザインセミナー(1) (学習到達目標：①・②・③・⑤)	●疫学・保健統計 I (2) (学習到達目標：②・⑤)	◇看護医療情報学(1) (学習到達目標：①・③・④)
◎情報処理基礎(2) (学習到達目標：④・⑤)	◆アプリケーション演習(2) (学習到達目標：④)		
	ITの発展と生活(2) (学習到達目標：①・②・③・④)		
	○メディアリテラシー論(2) (学習到達目標：①・②・③・④)		
	情報科学(2) (学習到達目標：⑥)		

### 【プログラムの修了要件】

国際文化学部・音楽学部・健康生活学部の学生

⇒ ◎の科目を必修とし、4単位以上を修得すること。

看護学部の学生

⇒ ◎と●の科目を必修とし、6単位以上を修得すること。 63

### 【科目の記号】

◎：プログラムを修了するための必修科目

◆：全学部で開講されている科目

○：他学部他学科開放科目（全学部学生が履修可能）

●：看護学部のみで開講されたプログラムを修了するための必修科目

◇：看護学部のみで開講されている科目

無印：国際文化学部・音楽学部・健康生活学部で開講されている科目

# Kwassui M-DASH Literacyプログラム 学内運用体制

